

授業科目名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員
フレッシューズセミナー	講義	1単位 (15時間)	1年前期	西村泰治 宮里邦子 弓岡光徳 近藤敏

授 業 概 要

新入生全員を対象とした初年次教育講座と位置づけ、高等学校時代とは異なる大学生として、大学とは如何なるところで何をどのように学ぶのか目的を明確にして、様々な学修課題を解決するために SNS や図書館での検索方法を学ぶ。医療に携わる職種を選択した学生同士として討議を通して仲間づくりを行い切磋琢磨する意識やチームワーク力や表現力を学び、個々のキャリアについても思考し、4年間の大学生活を有意義に実りあるものとして過ごせるような基盤づくりを行う。

到 達 目 標

1. 大学で学ぶ意義を理解できる
2. 学修課題の解決方法を理解し検索できる
3. レポートの書き方を理解し意図が伝わるように表現できる
4. チームで課題に取り組みメンバーと協働できる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修

事前学修：該当テーマについて自主的に調べて授業に臨む

事後学修：当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする

対応	<input checked="" type="radio"/> (DP1)	<input type="radio"/> (DP2)	<input type="radio"/> (DP3)
DP	<input type="radio"/> (DP4)	<input type="radio"/> (DP5)	<input type="radio"/> (DP6)

回数	日程	単 元	内 容	担当教員
1		大学について知る	大学について知る 建学の精神「健康科学とは」	全員
2		情報リテラシー	課題解決のための検索方法 (SNS について、タブレットの利用法)	全員
3		大学での学修の基本	ノートのとり方、レポートの書き方、図書館の利用法	全員
4		レポート作成	自分を紹介する、他人を紹介するレポート作成	全員
5		チームワーク プレゼンテーション	身近で親しみやすい話題を取り上げ、異なる学部の学生とチームを組み発表や討論の技術・方法を学ぶ	全員
6		レポート発表会	レポート発表会	全員
7		領域横断的な学問	異なる学問視点から共通のテーマについて	全員
8		キャリアをめぐる社会状況	10年後のキャリアを考える (学びのマッピング)	全員

評 価	課題レポート (100%)
教科書	講師資料
参考図書等	
留意事項	
オフィスアワー等	

授 業 科 目 名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担 当 教 員
教育学	講義	1 単位 (15 時間)	1 年後期	佐喜本愛

授 業 概 要
<p>教育は歴史・社会・文化のすべての全体的な関連の中で営まれる。そこで、教育の目的と内容を理解し、近代の学校の成立と西欧や日本の歴史の変遷を概観し、「人間のための教育」という視点から、そこに見られる主な問題、とりわけ現代的課題である貧困や福祉の現状、医療と教育について検討していく。さまざまな具体的な教育思想や実践事例などを紹介しながら医療教育についても現状や課題などを考える。本科目では教育学の基本的な概念や知識、現代の教育における問題について学修する。</p>

到 達 目 標
<p>1. 教育の歴史が理解できる  2. 人間の成長と教育の意義・目的について説明できる  3. 教育の抱える現代的課題について具体的に説明できる</p>

事 前 学 習 ・ 事 後 学 習
<p>事前学習：該当テーマについて自主的に調べて授業に臨む  事後学習：当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする</p>

対応	◎ (DP1)	(DP2)	○ (DP3)
DP	(DP4)	(DP5)	(DP6)

回数	日程	単 元	内 容	担当教員
1	月 日	教育の目的と内容	授業ガイダンス 教育の目的と内容	佐喜本愛
2	月 日	近代の学校成立とその変遷	近代における学校成立の理由とその変遷	佐喜本愛
3	月 日	家庭教育の変遷	家族・地域・学校の構造変化と教育の関係	佐喜本愛
4	月 日	社会教育の定義と学校教育の違い	生涯教育から生涯学習への転換と社会構造の変化	佐喜本愛
5	月 日	現代的課題と教育 1 (貧困)	教育と貧困について (日本、中国、アメリカ、ヨーロッパ)	佐喜本愛
6	月 日	現代的課題と教育 2 (福祉と教育)	福祉と教育の現状 (日本、中国、ヨーロッパ)	佐喜本愛
7	月 日	現代的課題と教育 3 (医療と教育)	医療と教育の現状と課題	佐喜本愛
8	月 日	まとめ	まとめ	佐喜本愛

評 価	受講態度、提出レポート類、学期末試験から総合的に勘案して評価します。
教科書	なし
参考図書等	授業中に適宜紹介します。
留意事項	
オフィスアワー等	

授 業 科 目 名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担 当 教 員
心理学	演習	1 単位 (30 時間)	1 年前期	山口雄介

授 業 概 要

本科目では基礎心理学と応用（臨床）心理学の知識を学び、心理学を日常生活に応用できるようになることを目的とする。人間の生活基盤としての「個人・集団」の関係形成、心理および行動について理解する。人間は人との関係の中で生活しているが、人間の「心」の在りようは複雑で、その在りようが身体にも他者との関係にも影響する。心理学の伝統的方法と行動的方法をもとに人間理解の具体的方法を学ぶ。心理学は人のこころの動きや、そこから生じる行動について探究する学問である。心理学を日常生活に活用できるように学修する。

到 達 目 標

1. 心理学の全体像について説明できる
2. 人のこころの基本的な仕組みと働きについて理論を用いて説明できる
3. 本科目での学びを日常生活に活用できる

事 前 学 習 ・ 事 後 学 習

事前学習：各授業のテーマに該当するテキストに目を通しておく  
 事後学習：講義当日の配布資料やノートを読み返し、学びを深める

対応	◎ (DP1)	(DP2)	○ (DP3)
DP	(DP4)	(DP5)	(DP6)

回数	日程	単 元	内 容	担当教員
1	月 日	心理学とは	オリエンテーション 心理学の分野、心理学の全体像	山口雄介
2	月 日	知覚	人間の視覚の仕組みについて、錯視図形（「図と地」「ゲシュタルト」）の概念について	山口雄介
3	月 日	学習	人間が学習する仕組み「古典的条件づけ」、「オペラント条件づけ」、「観察学習」、「学習された無力感」の概念	山口雄介
4	月 日	記憶	記憶のメカニズム（「記銘」・「保持」・「再生」）や記憶の変容など 記憶力をアップさせる記憶方略	山口雄介
5	月 日	発達	エリクソンの「発達漸成説」、人間の生涯にわたる発達段階と発達課題について	山口雄介
6	月 日	青年（1）	青年期の区分 青年期の心理的特徴（「自己意識の高まり」、「劣等感と理想の追求」、「友情と恋愛」）	山口雄介
7	月 日	青年（2）	青年期の鍵概念である「アイデンティティ」について 「アイデンティティ・ステータス」、「モラトリアム」、「時間的展望」	山口雄介
8	月 日	性格	性格を分類・記述する理論として「類型論」と「特性論」や各種心理療法に関連する人格理論心理テスト体験	山口雄介
9	月 日	自己「自己とは何か？」	「自己概念」、「主体としての自己」、「物語的文脈としての自己」の3つの見地	山口雄介
10	月 日	家族	家族心理学の観点、「家族の発達段階」と「家族関係の病理（家庭内暴力、DV）」	山口雄介
11	月 日	心の病理と健康（1）心の健康性	「適応と不適応」、「欲求階層説」、健康な人間像に関する理論の一つとして、ロジャーズの「十分に機能している人間」について	山口雄介
12	月 日	心の病理と健康（2）精神障害	「外因性」、「内因性」、「心因性」の病因論による分類 思春期・青年期の心理的問題（不登校、引きこもり、自殺など）について	山口雄介
13	月 日	心の病理と健康（3）ストレス理論	「ストレスマネジメント」によって健康を回復・維持する必要性 ワークを交えながらストレス対処力の向上	山口雄介
14	月 日	社会	対人認知とコミュニケーションと対人行動（人間の行動は社会的な文脈や文化に影響を受ける）	山口雄介
15	月 日	まとめ	授業全体の振り返り、要点のまとめ	山口雄介

評 価	ミニレポート（40%）と定期試験（60%）により評価する。
教科書	はじめてふれる心理学 [第2版]
参考図書等	授業中に適宜紹介する。
留意事項	
オフィスアワー等	

授 業 科 目 名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担 当 教 員
発達心理学	演習	1 単位 (30 時間)	1 年後期	山口雄介

授 業 概 要

既修の「心理学」と関連させながら、心はいつからどのように変化していくのか。受精から死を迎えるまでのライフサイクルを視野にいれながら、ここでは胎児期から乳児期、幼児期、児童期、青年期までを中心に時間の経過とともに質的及び量的に変化するさまざまな発達の特徴を理解する。発達心理学という学問大系を学ぶだけでなく、身近な子育て、教育、人としての生き方等を考える機会とし、医療の対象である人間の誕生から老年期に至る生涯発達の過程において、各期の発達と課題を学ぶことで、医療に還元できる知識や探索の仕方を学修する。

到 達 目 標

1. 人間の生涯発達の理論について説明できる
2. 幼児期の発達と課題について説明できる
3. 児童期の発達と課題について説明できる
4. 思春期の発達と課題について説明できる
5. 成人期の発達と課題について説明できる
6. 中年期の発達と課題について説明できる
7. 老年期の発達と課題について説明できる

事 前 学 習 ・ 事 後 学 習

事前学習：各授業のテーマに該当するテキストに目を通しておく

事後学習：講義当日の配布資料やノートを読み返し、学びを深める

対応	◎ (DP1)	(DP2)	○ (DP3)
DP	(DP4)	(DP5)	(DP6)

回数	日程	単 元	内 容	担当教員
1	月 日	発達心理学の基礎	授業ガイダンス 「発達の概念」、「人間発達の特殊性」、「発達段階と発達課題」について	山口雄介
2	月 日	発達心理学の理論①	人間の成長と成熟の過程、「学習理論」、「認知発達理論」、「社会的関係の中での発達理論」の観点	山口雄介
3	月 日	発達心理学の理論②	発達のプロセスと発達課題に関する「ライフサイクル論」と「ライフコース論」について	山口雄介
4	月 日	胎生期から新生児期まで	胎生期から新生児期までの発達 「個体発生のメカニズム」、「胎児への環境からの影響」「誕生と新生児の特徴」	山口雄介
5	月 日	乳児期の発達	乳児期の発達 「乳児期の特徴と身体発達」、「乳児期の認知的発達」、「対人関係の始まりと母子関係」について	山口雄介
6	月 日	幼児期の機能と発達	幼児期における基本的な生活習慣の獲得 「知能」と「情動」と関連付けながら学習	山口雄介
7	月 日	幼児期の社会性	幼児期の社会性 「ことばの発達」や「親子関係から仲間関係」への対人関係の広がりに関連付けながら学習	山口雄介
8	月 日	児童期の発達	児童期における他者との関わりを通じた発達の様相 「身体的変化と成熟」、「学校生活の始まり」、「対人関係の発達」の観点から	山口雄介
9	月 日	乳児期から幼児期に生じる発達に関わる問題	乳児期から幼児期に生じる「発達障害」 発達障害に含まれる精神障害の分類や発達障害児への「合理的配慮」の実際について	山口雄介
10	月 日	青年期の発達	青年期の特徴と「自我同一性の獲得」について、青年期の「友人関係」「恋愛関係」	山口雄介
11	月 日	成人期の発達	青年期から成人期への移行に伴う「キャリア発達と社会生活」「キャリア発達理論」「家族の形成」	山口雄介
12	月 日	青年期以降のメンタルヘルスと精神保健	思春期・青年期の問題行動（「いじめと不登校」など）や精神病理 成人期の危機と職場のメンタルヘルス（「バーンアウト」など）	山口雄介
13	月 日	中年期の発達と危機	中年期の発達課題、「中年期のライフイベント」、そして「老い」の兆候が表れることによる心理過程	山口雄介
14	月 日	老年期の発達	老年期の発達に関して、「老いの特徴」、「老年期のパーソナリティと適応」、「老年期の不適応と障害」	山口雄介

15	月 日	「死」への対応、まとめ	「死に対する態度の発達」、「死の受容」、「残されたものの悲嘆」、「幸福な老いと最期」について 授業のまとめ	山口雄介
----	--------	-------------	--	------

評価	ミニレポート（40%）と定期試験（60%）により評価する。
教科書	発達心理学 15 講 北大路書房
参考図書等	授業中に適宜紹介する。
留意事項	
オフィスアワー等	

授 業 科 目 名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担 当 教 員
ジェンダー論	講義	1 単位 (15 時間)	1 年後期	宮崎聖子

授 業 概 要

多様性に富むグローバルな文化・社会を理解する上でジェンダーは重要な視点の一つである。医療、健康、保健に関わる人材は、人間の生と性に関するジェンダーへの深い理解が求められる。ここでは文化・社会的な在りようとしてのジェンダーがどのように構築されてきたか、具体的な歴史やトピックをとりあげながら、ジェンダーに関わる諸相を理解する。自己のジェンダーに気づき理解を深め、人権問題、社会問題にも広く対処できるような素養を身に着けることを目的とする。

到 達 目 標

1. 人間の生と性の歴史や現状について知る
2. 人間の生と性の多様性について理解する
3. 現代のジェンダーをめぐる課題を知り、それについての対応を考えることができる

事 前 学 習 ・ 事 後 学 習

事前学習：該当テーマについて自主的に調べて授業に臨む  
 事後学習：当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする

対応	◎ (DP1)	○ (DP2)	(DP3)
DP	(DP4)	(DP5)	(DP6)

回数	日程	単 元	内 容	担当教員
1	月 日	ジェンダーとは	ガイダンス、ジェンダー研究の課題、性をめぐる概念	宮崎聖子
2	月 日	フェミニズムの歴史	フェミニズムの歴史	宮崎聖子
3	月 日	近代家族の歴史	近代家族の歴史	宮崎聖子
4	月 日	多様な性	セクシャリティ、LGBT	宮崎聖子
5	月 日	ドメスティック・バイオレンス1	ジェンダーと暴力	宮崎聖子
6	月 日	ドメスティック・バイオレンス2	DV 防止法	宮崎聖子
7	月 日	リプロダクティブ・ヘルス・ライツ	リプロダクティブ・ヘルス・ライツ	宮崎聖子
8	月 日	グローバル化とジェンダー、まとめ	インドの事例	宮崎聖子

評 価	授業中に提出する小レポート 5 割、レポート 5 割で評価する。
教科書	講師資料
参考図書等	伊藤公男、牟田和恵編；ジェンダーで学ぶ社会学（全訂新版） 世界思想社 2015
留意事項	
オフィスアワー等	授業の後、またはメールによる。

授 業 科 目 名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担 当 教 員
法学	講義	1 単位 (15 時間)	1 年前期	岡克彦

授 業 概 要

日本国憲法は「国民主権」「基本的人権の尊重」「平和主義」の3つの柱から成り立っている。日本国憲法の基本的な考え方を知り、憲法が国家や社会の基礎をなしていることを理解する。「基本的人権」は侵すことのできない永久の権利であるが、基本的人権が法の下にどのように保障されているか学び、現在起こっている身近なもの結び付けて考えてみる。また「患者の権利」について具体的に検討し、臨地（床）の場で生じる様々な問題についても学修する。

到 達 目 標

1. 憲法とは、立憲主義とはどのようなものか説明できる
2. 人権の保障がどのように発展してきたか説明できる
3. 法が担う役割について説明できる

事 前 学 習 ・ 事 後 学 習

事前学習：該当テーマについて自主的に調べて授業に臨む  
 事後学習：講義当日の配布資料やノートを読み返し、学びを深める

対応	◎ (DP1)	○ (DP2)	(DP3)
DP	(DP4)	(DP5)	(DP6)

回数	日程	単 元	内 容	担当教員
1	月 日	法とは何か	授業ガイダンス 憲法とは何か、日常生活における法の役割	岡克彦
2	月 日	人権の概念・内容の理解	基本的人権とは	岡克彦
3	月 日	憲法第 13 条	幸福追求権と人権の関係、限界	岡克彦
4	月 日	立法権と行政権	立法権（国会の仕組みと働き）と行政権（内閣と行政間）	岡克彦
5	月 日	表現の自由	表現の自由について、伝える事由があるということ	岡克彦
6	月 日	民事と刑事とは	民事とは、刑事とは	岡克彦
7	月 日	患者の権利	最近の事例から患者の権利について考える	岡克彦
8	月 日	最近の事例から患者の権利について考える	最近の事例から医療者と法について考える まとめ	岡克彦

評 価	毎回の授業への出席状況および定期試験などにもとづいて総合的に成績を評価する。
教科書	特に指定しない。
参考図書等	1. 初宿正典ほか；いちばんやさしい憲法入門 第6版 有斐閣アルマ 2020 2. 手嶋豊；医事法入門 第5版 有斐閣アルマ 2018 3. 初川満；実践医療と法—医療者のための医事法入門 信山社 2016
留意事項	
オフィスアワー等	質問などは、授業時またはメールで行うこと。

授 業 科 目 名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担 当 教 員
社会学	講義	1 単位 (15 時間)	1 年後期	山下亜紀子

授 業 概 要

人間は社会的存在であり、社会の在りように個人は影響を受ける。少子高齢社会、人口減少社会、情報化社会、無縁社会、多死社会など我々が暮らしている地域社会に関する諸問題に対して検討することで、自分がいまどのような位置にいるか見えてくる、それは自分がどう生きるかにつながる。我々が生活する社会を再度見直し考える事によって、我々が生きる現代社会の諸問題についての幅広い知識を身につけ、今後の社会について自らの視点をもって考え、物事にあたることができるように学修する。

到 達 目 標

1. 社会学の概要を説明できる。
2. 現代社会の人口変動がもたらす問題を説明できる。
3. 現代社会の福祉的課題や家族について説明できる。
4. 現代社会の課題や諸問題を説明できる。

事 前 学 習 ・ 事 後 学 習

事前学習：該当テーマについて自主的に調べて授業に臨む

事後学習：当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする

対応	◎ (DP1)	(DP2)	(DP3)
DP	○ (DP4)	(DP5)	(DP6)

回数	日程	単 元	内 容	担当教員
1	月 日	社会学とは	授業ガイダンス 社会学とは何かその概要	山下亜希子
2	月 日	近代社会 1	集団・組織—集団や組織の何が問題か、その視点・論点	山下亜希子
3	月 日	近代社会 2	家族—その普遍性・多様性・現代性—	山下亜希子
4	月 日	近代社会 3	都市—都市の見方、都市の姿	山下亜希子
5	月 日	近代社会 4	農山村—過疎化と高齢化の波	山下亜希子
6	月 日	近代社会 5	福祉—高齢化と支え合う社会—	山下亜希子
7	月 日	近代社会 6	社会問題・社会病理	山下亜希子
8	月 日	社会学的方法論 まとめ	社会調査—方法を理解する、作品を味わう— ・ 授業まとめ	山下亜希子

評 価	平常点（出席+受講態度）、課題提出状況、レポートにより総合的に評価する。 出席は毎回とることとする。また欠席 4 回以上の者は、その後の受講資格を失うものとする。
教科書	山本努編；現代の社会学的解読 新版—イントロダクション社会学— 学文社 2016
参考図書等	講義中に提示する。
留意事項	
オフィスアワー等	授業中。あるいは E-mail(yamashita.akiko.078@m.kyushu-u.ac.jp)にて連絡すること。



授 業 科 目 名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担 当 教 員
倫理学	講義	1 単位 (15 時間)	1 年後期	倉田剛

授 業 概 要
現代は科学技術と医療技術の進歩が人間の生存に関してさまざまな倫理的問題を提起している。これから人々の健康に関わる学生にとって、人間の存在そのものや、生きる意味など、状況によっては多くのジレンマにも遭遇することが考えられる。その状況をどのように捉え、考え、対応していけばいいのか、困難な問題に突き当たったときのためにも倫理学の理論、学説、方法論の基本を学び、論理的な思考能力を身につけ、医療関係者として倫理的視点を養うように学修する。

到 達 目 標
1. 倫理とは何か説明できる 2. 倫理判断の基準と根拠について説明できる 3. 倫理的観点から具体的な事例を通して判断し説明できる

事 前 学 習 ・ 事 後 学 習
事前学習：該当テーマについて自主的に調べて授業に臨む 事後学習：当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする

対応	◎ (DP1)	○ (DP2)	(DP3)
DP	(DP4)	(DP5)	(DP6)

回数	日程	単 元	内 容	担当教員
1	月 日	倫理学とは	イントロダクション 倫理学の課題	倉田剛
2	月 日	現代の倫理学	規範倫理学とメタ倫理学	倉田剛
3	月 日	功利主義 1	古典的な功利主義	倉田剛
4	月 日	功利主義 2	現代の功利主義	倉田剛
5	月 日	義務論 1	古典的な義務論	倉田剛
6	月 日	義務論 2	現代の義務論	倉田剛
7	月 日	応用倫理学	具体的な状況への応用	倉田剛
8	月 日	まとめ	授業のまとめ	倉田剛

評 価	平常点（授業への積極的な参加）と学期末試験の結果によって評価する。
教科書	毎回、資料を配布する。
参考図書等	適宜推薦する。
留意事項	とくになし。
オフィスアワー等	事前にメール等で連絡することが望ましい。

授 業 科 目 名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担 当 教 員
人間関係論	講義	1 単位 (15 時間)	1 年前期	吉原克枝

授 業 概 要
人間は幼少期から成長する過程で様々な人間関係を経験する。その経験は個々の心と体の「健康」に大きな影響を与える。現代社会は常に変化しており、そこで生じる多様な人間関係も複雑化している。人間関係論はホーソンの実験により、経営組織の諸状況が人間関係によって規定され、その因果関係を体系化した理論で人間関係の重要性を示したものである。医療に携わる学修者として人間関係づくりの基礎的知識を理解し、対象者となる人間理解と自己理解を深め、人々の健康課題に寄与できるように学修する。

到 達 目 標
1. 自己と他者の関係を説明できる 2. 発達に関わる人間関係の問題を説明できる 3. 現代の人間関係の諸問題について説明できる

事 前 学 習 ・ 事 後 学 習
事前学習：該当テーマについて自主的に調べて授業に臨む 事後学習：当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする

対応	◎ (DP1)	○ (DP2)	(DP3)
DP	(DP4)	(DP5)	(DP6)

回数	日程	単 元	内 容	担当教員
1	月 日	人間関係の諸相	授業ガイダンス 社会的動物としての人間と人間関係の発達	吉原克枝
2	月 日	自己の仕組みと働き	自己認知, 自己評価, 自己開示, 自己呈示が人間関係にもたらす影響	吉原克枝
3	月 日	対人認知と対人関係	対人認知と対人魅力 人間関係の維持と崩壊	吉原克枝
4	月 日	態度と説得	態度と態度変化の理論 説得的コミュニケーション	吉原克枝
5	月 日	援助と攻撃	攻撃のコントロール 援助行動	吉原克枝
6	月 日	集団	集団での課題遂行 集団での問題解決と意思決定	吉原克枝
7	月 日	職場の人間関係	リーダーシップとチームワーク	吉原克枝
8	月 日	保険医療における 人間関係	保健医療チームの人間関係 患者を支える人間関係	吉原克枝

評 価	レポート 60% 授業取組 (毎回の授業での振り返り等の課題) 40%
教科書	系統看護学講座基礎分野 人間関係論 医学書院
参考図書等	その他, 参考となる書籍, 文献については適宜授業にて紹介します
留意事項	
オフィスアワー等	

授 業 科 目 名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担 当 教 員
コミュニケーション論	講義	1 単位 (15 時間)	1 年前期	吉原克枝

授 業 概 要

コミュニケーションは私たちの生活のあらゆる場面に存在し、人間社会を成立させる重要な手段であり、人間の「考え・感情」を表現し、理解しあうことにつながる。健康課題を持つ対象に対応する医療関係者にとってこの能力は重要となる。本科目では多様なコミュニケーションにおいて、双方向の情報を正しく読み取り、適切に伝え、よりよいコミュニケーションをはかる手立てを探る力をつけることを目的に、医療に関する職業に携わる学修者として実践に活かせるように学修する。

到 達 目 標

1. コミュニケーションの概念について説明できる
2. 対人コミュニケーションの基礎について説明できる
3. コーチングについて説明できる
4. カウンセリングについて説明できる
5. コミュニケーションが社会に与える影響を説明できる

事 前 学 習 ・ 事 後 学 習

事前学習：該当テーマについて自主的に調べて授業に臨む

事後学習：当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする

対応	◎ (DP1)	○ (DP2)	(DP3)
DP	(DP4)	(DP5)	(DP6)

回数	日程	単 元	内 容	担当教員
1	月 日	コミュニケーションとは	授業ガイダンス コミュニケーションとは マスメディアとソーシャルメディアの社会的影響	吉原克枝
2	月 日	気持ちを分かち合う コミュニケーション	信頼関係を築く人の話の聴き方 会話を弾ませる質問と答えの仕方	吉原克枝
3	月 日	仕事を進める論理的 コミュニケーション1	仕事に必要な論理的な話の組み立て方	吉原克枝
4	月 日	仕事を進める論理的 コミュニケーション2	わかりやすい説明の技法	吉原克枝
5	月 日	コーチングとは	コーチングの技法	吉原克枝
6	月 日	カウンセリングとは	カウンセリングの技法	吉原克枝
7	月 日	アサーションとは	アサーティブ コミュニケーションの技法	吉原克枝
8	月 日	医療チームにおける コミュニケーション	チームエラーを防ぐためのコミュニケーション	吉原克枝

評 価	レポート 60% 授業取組（毎回の授業での振り返り等の課題） 40%
教科書	系統看護学講座基礎分野 人間関係論 医学書院
参考図書等	その他、参考となる書籍、文献については適宜授業にて紹介します
留意事項	
オフィスアワー等	

授 業 科 目 名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担 当 教 員
国際関係論	講義	1 単位 (15 時間)	1 年後期	山根健至

授 業 概 要

グローバル化が急速に進行している現在、世界各地で発生している問題は 1 国のみ問題ではなく、複数の国々や組織などの関係の上で成り立っている。他国や他地域で起きた様々な問題は、自分の身近なところに直結し生活に影響している。こうした状況を踏まえて、本科目では、国際関係論の理論的背景、歴史的経緯を理解し、紛争問題や貧困と格差など具体的な国際問題を検討することを通して、世界で起きている問題や日本の果たす役割について学修する。

到 達 目 標

1. 国際社会の仕組みや国際機関の役割を説明できる
2. 世界が抱える紛争問題について説明できる
3. 世界が抱える貧困と格差について説明できる
4. 国際的な人の移動について説明できる
5. 世界の抱える問題と日本が抱える問題の相互関連について説明できる
6. 問題解決の取組みにおける日本の役割について説明できる

事 前 学 習 ・ 事 後 学 習

事前学習：該当テーマについて自主的に調べて授業に臨む

事後学習：当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする

対応	<input type="radio"/> (DP1)	<input type="radio"/> (DP2)	<input type="radio"/> (DP3)
DP	<input checked="" type="radio"/> (DP4)	<input type="radio"/> (DP5)	<input type="radio"/> (DP6)

回数	日程	単 元	内 容	担当教員
1	月 日	国際関係論概要	授業ガイダンス 国際関係論とは、国際社会の成立、国際社会を形成するアクター	山根健至
2	月 日	国際機関とその役割	国際連合の組織と役割、その他の国際機関	山根健至
3	月 日	世界が抱える紛争問題	紛争多発地の状況・テロ（事件）の事例を通して	山根健至
4	月 日	世界が抱える貧困と格差	各国が抱える貧困と格差、日本の抱える貧困	山根健至
5	月 日	世界が抱える環境問題	エネルギー、温暖化、生態系、水資源	山根健至
6	月 日	国際的な人の移動	国際労働力移動、移民、難民、日本の外国人労働者	山根健至
7	月 日	平和構築と日本の役割	紛争と平和構築、PKO の仕組みと活動状況、日本の取組み	山根健至
8	月 日	国際協力と ODA	ODA の仕組みと日本の国際協力、授業のまとめ	山根健至

評 価	期末レポート（80%）、出席などの平常点（20%）
教科書	毎回レジュメを配布します。
参考図書等	1. 佐渡友哲他編著『国際関係論 第3版』弘文堂 2. 藤原帰一他編著『平和構築・入門』有斐閣 3. 福田保編『アジアの国際関係』春風社 4. 坂本治也編『市民社会論』法律文化社
留意事項	
オフィスアワー等	

授 業 科 目 名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担 当 教 員
文化人類学	講義	1 単位 (15 時間)	1 年後期	宮崎聖子

授 業 概 要
「国際化」や「グローバル化」が進む中、自文化と異文化の理解は私たちにとって必須なものとなっている。世界各国との交流が活発な現在、医療に関わる人材には、文化による考え方や価値、生活習慣の違いなど理解し対応する必要がある、特にその能力が必要とされている。文化人類学はそのための有力なツールである。本科目では、「文化とは何か」「人間とは何か」を、多様で具体的事象や理論を紹介しながら考えていく。それにより文化理解に必要な総合的な知識を学修し、今日の世界を洞察する力を身につける。

到 達 目 標
1. 文化の多様性を理解することで、他者理解の姿勢を持つことができる 2. 家族の捉え方の視点を説明できる 3. 病気や死の捉え方の普遍性と多様性を説明できる

事 前 学 習 ・ 事 後 学 習
事前学習：該当テーマについて自主的に調べて授業に臨む 事後学習：当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする

対応	<input type="radio"/> (DP1)	<input type="radio"/> (DP2)	<input type="radio"/> (DP3)
DP	<input checked="" type="radio"/> (DP4)	<input type="radio"/> (DP5)	<input type="radio"/> (DP6)

回数	日程	単 元	内 容	担当教員
1	月 日	文化と文化人類学	ガイダンス、文化人類学とは	宮崎聖子
2	月 日	家族と親族	家族の成り立ち、家族とは	宮崎聖子
3	月 日	人生と通過儀礼	人生と通過儀礼	宮崎聖子
4	月 日	身体と病	諸文化における身体、病のあり方	宮崎聖子
5	月 日	死と葬送	諸文化における死や葬送のあり方	宮崎聖子
6	月 日	宗教と科学技術	宗教のあり方と科学技術との関わり	宮崎聖子
7	月 日	フィールドワーク	文化人類学のフィールドワーク、現場で考える	宮崎聖子
8	月 日	まとめ	人間と文化の洞察、まとめ	宮崎聖子

評 価	授業中に提出する小レポート 5 割、レポート 5 割で評価する。
教科書	
参考図書等	波平恵美子編：文化人類学 カレッジ版 3 版 医学書院 2011
留意事項	
オフィスアワー等	授業の後、またはメールによる。

授業科目名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員
アジアの文学	講義	1単位 (15時間)	1年前期	松原孝俊

授 業 概 要

アジアは非常に広大な地域であり、地域が辿ってきた歴史によって根付く文学の特徴にも違いがある。ここではアジア文学の中でも、東アジア（日本・中国・韓国）における古典文学と近代文学について学ぶ。作品を通して時代背景とともに人間の生きざまや考え方、思想がその文学にどのように影響しているか、それぞれの文学の特徴や関連について学修することを通して、時代背景や各地の文化が人間の生活や考え方、生き方に及ぼす影響について深く理解する。

到 達 目 標

1. 日本における古典文学と近代文学の特徴を説明できる
2. 中国における古典文学と近代文学の特徴を説明できる
3. 朝鮮（韓国）における古典文学と近代文学の特徴を説明できる
4. 作品の背景を理解し、東アジアの文学の関連について説明できる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修

事前学修：教科書と関連する該当箇所を予習し授業に臨むこと

事後学修：テキスト、講義資料、参考資料などを用いて、学修した内容を整理し、理解を深める

対応	○ (DP1)	(DP2)	(DP3)
DP	(DP4)	(DP5)	(DP6)

回数	単 元	内 容	担当教員
1	東アジアの文学の歴史と関係	授業ガイダンス 東アジアの文学の歴史とその関係	松原孝俊
2	日本の古典文学	紫式部と松尾芭蕉	松原孝俊
3	日本の近代文学	夏目漱石の文学について	松原孝俊
4	中国の古典文学	中国古典文学の特質、李白、杜甫	松原孝俊
5	中国の近代文学	中国近代文学の父、魯迅の作品	松原孝俊
6	韓国の古典文学	パンソリ（朝鮮の伝統的民族芸能であり口承芸能）について	松原孝俊
7	韓国の近代文学	李光洙の作品を読む「土」	松原孝俊
8	まとめ	授業の振り返り まとめ	松原孝俊

評 価	課題レポート（100%）
教科書	講師資料
参考図書等	
留意事項	
オフィスアワー等	

授業科目名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員
福岡の歴史と文化	講義	1 単位 (15 時間)	1 年前期	松原孝俊 宮井善郎 中野等

授業概要
福岡市の歴史、特に博多の成り立ちを学ぶ。福岡市は九州の玄関口として、またアジアに開かれた都市として、近年とみにグローバル化している。保健医療に携わる者としてこれから大学生活をおくる福岡の歴史、生活する人々の暮らしや地域で行われている習慣を知ることが、地域の環境や文化の理解、地域で生活する人の理解につながるとともに、地域に対する誇りを確認することにもなり大切な要素となる。自らも福岡の魅力を発信できるように多方面から学修する。

到達目標
1. 福岡の歴史を知り、古代から近代までの概要を説明できる。 2. 福岡の多文化共生社会の中で人権について説明できる。 3. 福岡の多文化共生社会における在日外国人の現状や課題について説明できる。

事前学修・事後学修
事前学修：教科書と関連する該当箇所を予習し授業に臨むこと 事後学修：テキスト、講義資料、参考資料などを用いて、学修した内容を整理し、理解を深める。

対応	○ (DP1)	(DP2)	(DP3)
DP	(DP4)	(DP5)	(DP6)

回数	日程	単元	内容	担当教員
1		福岡の歴史 古代	古代日本の玄関口筑紫館と鴻臚館	宮井善郎
2		中世	発掘調査からみた中世博多チャイナタウン	宮井善郎
3		近世の福岡	福岡藩を取り巻く諸問題	宮井善郎
4		近代	福岡の近代化遺産 330	宮井善郎
5		現代	博多港にたどり着いた外地からの引きあげ者 139 万人	松原孝俊
6		福岡における多文化共生社会 1	人権啓発・同和問題	宮井善郎
7		福岡における多文化共生社会 2	在日外国人・外国人労働者	宮井善郎
8		福岡における多文化共生社会 3	多文化共生に向けた街づくり	宮井善郎

評価	課題レポート (100%)
教科書	講師資料
参考図書等	
留意事項	
オフィスアワー等	

授 業 科 目 名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担 当 教 員
健康科学入門	講義	1 単位 (15 時間)	1 年前期	<a href="#">西村泰治</a> 野地有子 溝田勝彦 近藤敏

授 業 概 要
日本は世界に先駆けて高齢社会となり、国民が健康でよりよく生きるかということは大きな命題でもある。「健康」とは何か、人々のより良い健康を支援する職業に携わるものとして、看護、理学療法、作業療法、各々の視点から健康を深く理解し、人間の「健康」を支える「科学」とは何かを思考する。健康科学を支える学問は多岐にわたっており、人々の健康の実現を目指していく実践的な科学である。ここでは各学科の専門基礎分野・専門分野への導入として、その礎となる「健康科学」について学修する。

到 達 目 標
1. 自分が学ぶ領域における健康とはどのようなものか説明できる
2. 科学とは何か説明できる
3. 健康を科学するとは自分が学ぶ領域でどのようなことが考えられるか自分なりに説明できる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前学修：該当テーマについて自主的に調べて授業に臨む
事後学修：当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする

対応	○ (DP1)	(DP2)	◎ (DP3)
DP	(DP4)	(DP5)	(DP6)

回数	日程	単 元	内 容	担当教員
1		健康とは1	授業ガイダンス 健康とは何か 医学領域からみた健康	西村泰治
2		健康とは2	看護領域からみた健康	野地有子
3		健康とは3	理学領域からみた健康	溝田勝彦
4		健康とは4	作業領域からみた健康	近藤敏
5		科学とは何か	科学とは何か 仮説の立案とその検証	西村泰治
6		健康を科学する1	健康を科学する最新の研究から (看護)	野地有子
7		健康を科学する2	健康を科学する最新の研究から (理学)	溝田勝彦
8		健康を科学する3	健康を科学する最新の研究から (作業)	近藤敏

評 価	課題レポート (100%)
教科書	講師資料
参考図書等	
留意事項	
オフィスアワー等	



授 業 科 目 名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担 当 教 員
医療と情報リテラシー	演習	1 単位 (30 時間)	1 年前期	藤村直美

授 業 概 要

激しく変化している社会の中で生きていくためには生涯学習が必須となり、各自がそれぞれの方法を身につけるためには情報リテラシー能力の獲得が必要である。本科目ではインターネットの概要について学び、その上で動くアプリケーションの仕組みや基礎技術を理解し、適切に使いこなせるように学ぶ。医療の現場は ICT (Information and Communication Technology) の発達によって大きく変化している。しかしその一方では様々な問題や課題がある。ICT を用いた新しい医療としては遠隔での診療が可能になったり、情報の共有ができたり、災害時に活用できたりなど現在の状況や、これから充実していく 5G (高速、大量の通信が可能) での医療の活用について学ぶ。さらに医療倫理的側面から、医療に関わる人々が知っておくべき課題について学修する。

到 達 目 標

1. インターネットで使える機能の仕組みを理解して、適切に使用できる
2. セキュリティについて理解し、安心・安全にインターネットとアプリを使用できる
3. インターネット上で入手できる様々なコンテンツの探索方法、活用方法を理解して活用できる
4. コンピュータの基礎知識を説明できる
5. 医療情報のリテラシーについて説明できる
6. 病院情報システムの構成について理解し、説明できる
7. ICT や情報技術、通信技術発達による医療への影響、IoT (Internet of Things) と生活の関連について説明できる
8. 個人情報の取り扱いについて説明できる

事 前 学 習 ・ 事 後 学 習

事前学習：該当テーマについて自主的に調べて授業に臨む  
 事後学習：当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする

対応	(DP1)	◎ (DP2)	○ (DP3)
DP	(DP4)	(DP5)	(DP6)

回数	日程	単 元	内 容	担当教員
1		インターネットの概要	授業ガイダンス インターネットの概要 (構成要素、接続形態、IP アドレス、ドメイン名)	藤村直美
2		電子メールについて	電子メール (配送の仕組み 利用上の注意)	藤村直美
3		情報セキュリティ	情報セキュリティ (ウイルス、ファイアウォール、通信方法)	藤村直美
4		コンピュータとデータベース	コンピュータ構成要素 (ハードウェア、OS、ソフトウェア)、デバイス、データベース	藤村直美
5		医療情報リテラシー	医療情報のリテラシー (医療者サイドと非医療者サイドの違い)	藤村直美
6		病院情報システム 1	医事会計システム、オーダーリングシステム、電子カルテシステム、各医療システムの構成 システム開発、導入、管理、運用 様々な医療システム	藤村直美
7		病院情報システム 2	医事会計システム、オーダーリングシステム、電子カルテシステム、各医療システムの構成 システム開発、導入、管理、運用 様々な医療システム	藤村直美
8		WWW とは	WWW (サーバー、クライアント、HTTP/HTTPS、検索の仕組み)	藤村直美
9		暮らしの場で支援を必要とする人と ICT IoT と生活・医療	ICT を活用した情報共有と支援 医療に関するモノをインターネットに接続することによる効果と影響	藤村直美
10		情報技術、通信技術を利用した医療	情報技術、通信技術を用いた健康づくり、遠隔医療、医療安全への取り組み (転倒など)、介護予防 5G の医療・保健・福祉への導入、6G 時代の到来について	藤村直美
11		OER について	OER (Open Education Resources) (OCW、MOOC、世界の学習教材)	藤村直美
12		個人情報保護	医療現場における個人情報の扱い、個人情報保護法と次世代医療基盤法の解説	藤村直美
13		これからの医療情報	近未来の医療情報を考える、グループ発表、授業のまとめ	藤村直美
14		クラウドについて	クラウド (仕組み、特徴、利用方法)	藤村直美
15		電子決済について	電子決済 (仕組み、種類と特徴、メリット/デメリット)	藤村直美

評 価	
教科書	
参考図書等	
留意事項	講義形式は オンライン会議（オンデマンド型） 録画ビデオを活用した予習・復習、及びそれを活用した反転学習による。
オフィスアワー等	

授業科目名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員
論理的思考法	講義	1単位 (15時間)	1年前期	倉田剛

授 業 概 要

今日、どのような職業においても「根拠（エビデンス）にもとづいた思考と行動」が求められている。医療の領域も例外ではない。そこでは「エビデンスにもとづく治療（医療）」という言葉をよく耳にするようになった。しかし、根拠にもとづいて結論を導き出すとはいかなることなのか。ある結論をエビデンスによってサポートするとはどのようなことなのか。こうした根本的な問いを考えるのが、この講義の目的である。この講義では、「論証」の構造およびその評価の仕方を、演繹と帰納の観点から体系的に検討することによって、これらの問いにアプローチする。論理的思考を修得することは、大学におけるアカデミックスキルを身につける際にも基本となるだろう。

到 達 目 標

1. 論証とは何か説明できる
2. 様々なタイプの論証に関する評価基準について説明できる
3. 身近な場面から自分自身で説得的な論証をつくることのできる

事 前 学 習 ・ 事 後 学 習

事前学習：該当テーマについて自主的に調べて授業に臨む  
 事後学習： 当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする

対応	(DP1)	◎ (DP2)	○ (DP3)
DP	(DP4)	(DP5)	(DP6)

回数	日程	単 元	内 容	担当教員
1	月 日	論証とは何か	授業ガイダンス なぜ論理的思考が大切なのか	倉田剛
2	月 日	論証の構造	前提と結論	倉田剛
3	月 日	論証のタイプ	演繹と帰納、主な論証のタイプを区分する	倉田剛
4	月 日	論証の評価	妥当性と帰納的強さとの区別	倉田剛
5	月 日	仮説形成型論証	仮説の形成とその確証の仕方	倉田剛
6	月 日	帰納的一般化	サンプル（部分）から母集団（全体）の様子を推測する	倉田剛
7	月 日	因果推論	確からしい原因を特定する論証	倉田剛
8	月 日	まとめ	授業のまとめ	倉田剛

評 価	平常点（授業への積極的な参加）と学期末試験の点数によって評価する。
教科書	倉田 剛『論証の教室〔入門編〕 インフォーマル・ロジックへの誘い』（新曜社、2022年3月）
参考図書等	適宜推薦する。
留意事項	とくになし。
オフィスアワー等	事前にメール等で連絡することが望ましい。

授 業 科 目 名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担 当 教 員
統計学	演習	1 単位 (30 時間)	1 年後期	山下貴範

授 業 概 要

本科目は基礎的な話を中心となる。統計学は、1つ1つの基礎を積み上げながら自分の中でイメージを描き、理解をしていくことが大事である。特に、扱うデータの種類や性質などが分かっていると、そこから先の統計学の理解が難しくなる。そのため、最初に医療データの種類や医療データ解析事例を説明する。そして前半は基礎となる特徴記述統計の理解を中心に解説する。後半の推測統計では標本の扱い、推定、検定の手法についての理解を中心に解説する。統計学は各分野での学修の基礎となる、今後の研究的思考に活かせるように学修する。

到 達 目 標

1. 医療データの種類、性質を理解できる
2. データを収集するための計画・立案ができる
3. データの種類を把握し、基本統計量を求めることができる
4. 統計検定の流れを把握し、正しく検定の判断ができる
5. 統計解析デザインの重要性を理解できる
6. 目的に沿った検定手法を用いることができる

事 前 学 習 ・ 事 後 学 習

事前学習：該当テーマについて自主的に調べて授業に臨む  
 事後学習：当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする

対応	○ (DP1)	(DP2)	◎ (DP3)
DP	(DP4)	(DP5)	(DP6)

回数	日程	単 元	内 容	担当教員
1	月 日	概論 医療データの現状	医療データの種類、特徴	山下貴範
2	月 日	医療データ解析の目的	解析の目的（医療データ解析事例を元に）	山下貴範
3	月 日	医療データ解析の目的	統計分析の目的、基本的な用語、研究種類、解析方法の概要	山下貴範
4	月 日	記述統計 1 1 変数データの記述（代表値、散布度）	代表値（最頻値・中央値・平均値）、散布度（範囲・分位点、パーセンタイル、分散、標準偏差）	山下貴範
5	月 日	記述統計 2 2 変数データの記述	クロス表、散布図	山下貴範
6	月 日	記述統計 3 2 変数データの記述	2 変数データの関連指標（カイ二乗値、クラメール関連指数、相関係数）	山下貴範
7	月 日	記述統計のまとめ	記述統計について、演習問題	山下貴範
8	月 日	推測統計 1 母集団・確率分布	母集団と標本、確率分布（離散型、連続型）	山下貴範
9	月 日	推測統計 2 推定と検定	推定（点推定、区間推定）、検定（帰無仮説、対立仮説）	山下貴範
10	月 日	推測統計 3 検定手法各論	独立性の検定、ノンパラメトリック検定	山下貴範
11	月 日	推測統計 4 解析手法	単変量解析～多変量解析	山下貴範
12	月 日	推測統計のまとめ	推測統計について、演習問題	山下貴範
13	月 日	統計デザイン	統計解析におけるデザインの重要性	山下貴範
14	月 日	統計と機械学習	機械学習手法の説明と統計手法の違い	山下貴範
15	月 日	統計学と医療データ	何を目的にどのような医療データで統計解析するか議論、授業のまとめ。	山下貴範

評 価	
教科書	講師資料、基礎医学統計学改訂第7版
参考図書等	
留意事項	
オフィスアワー等	

授 業 科 目 名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担 当 教 員
生物学	演習	1 単位 (30 時間)	1 年前期	照屋輝一郎

授 業 概 要

医療職に必要な不可欠な生物学の基本事項を学修し、生命とは何かを考える。初めに生命の基本となる細胞の構造と機能を理解し、生体を構成する分子や恒常性維持のメカニズムについて学ぶ。また発生・分化、遺伝と生物進化、生命誕生と死に関する事項の学びを通じて、「生きるとは何か」という生命の本質を理解する。ここでは医療の基礎となる生物学を学ぶことで、私たちの生命がどのような仕組みで維持されているのかを理解し、それを専門分野に応用できる基礎的能力を養う。

到 達 目 標

1. 細胞を構成する物質の特徴を説明できる
2. 遺伝の仕組みについて説明できる
3. エネルギー代謝、細胞の増殖、細胞の死について説明できる
4. 脳神経、免疫の仕組みについて説明できる
5. 生命のしくみについて説明できる

事 前 学 習 ・ 事 後 学 習

事前学習：該当テーマについて自主的に調べて授業に臨む

事後学習：当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする

対応	◎ (DP1)	○ (DP2)	(DP3)
DP	(DP4)	(DP5)	(DP6)

回数	日程	単 元	内 容	担当教員
1	月 日	生物とは	授業ガイダンス 生命の誕生、生物とは、生物学の体系	照屋輝一郎
2	月 日	細胞	細胞膜、核、小胞体、ゴルジ体、ミトコンドリア、リボソーム	照屋輝一郎
3	月 日	生物を構成する物質	水、糖質、脂質、タンパク質、アミノ酸、核酸、ヌクレオチド	照屋輝一郎
4	月 日	栄養と代謝	栄養素、異化と同化、ATP、酵素、エネルギー代謝、代表的な代謝経路	照屋輝一郎
5	月 日	遺伝と DNA	遺伝の法則、ゲノムと染色体、DNA、突然変異	照屋輝一郎
6	月 日	遺伝情報の発現	セントラルドグマ、RNA、転写、翻訳	照屋輝一郎
7	月 日	細胞増殖・細胞死	細胞周期、体細胞分裂、減数分裂、細胞の死	照屋輝一郎
8	月 日	生殖・発生・分化	生物の増殖、動物の発生、分化・再生	照屋輝一郎
9	月 日	動物の組織	組織の形成と細胞、筋、血液	照屋輝一郎
10	月 日	動物の器官	消化系、循環系、呼吸器、排出系、感覚系	照屋輝一郎
11	月 日	ホルモンと生体調節	ホルモン、生体調節のしくみ	照屋輝一郎
12	月 日	神経系	中枢神経系、末梢神経系、ニューロン、神経伝達物質	照屋輝一郎
13	月 日	免疫	免疫とは、自然免疫、獲得免疫	照屋輝一郎
14	月 日	生命システムの破綻	がん、老化	照屋輝一郎
15	月 日	バイオテクノロジーと医療	遺伝子組換え、細胞工学、再生医療、生命倫理	照屋輝一郎

評 価	成績は主に学期末テストの結果で評価するが、課題などの提出状況も含めて評価する。
教科書	田村隆明 著 医療・看護系のための 生物学 (改訂版) 裳華房 ISBN 978-4-7853-5233-2

参考図書等	1. 八杉貞雄 著 ヒトを理解するための 生物学 (改訂版) 裳華房 ISBN 978-4-7853-5242-4 2. 中村桂子/松原謙一/榎佳之/水島昇 監訳 Essential 細胞生物学 原書第 5 版 南江堂 ISBN 978-4-524-22682-5
留意事項	
オフィスアワー等	

授 業 科 目 名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担 当 教 員
物理学	演習	1 単位 (30 時間)	1 年前期	黒木昌一

授 業 概 要

物理学は、科学技術のベースとなる重要な分野であり、さまざまな自然現象を考える上で基礎的な学問となる。本科目の目的は、力学の基本的な原理について正しい理解を得ること、看護師、理学療法士、作業療法士に必要な物理学に関連する知識を得ること、科学的または論理的な考え方を養うことである。人体の運動と物理の法則の関係を理解し、科学的な思考で人間の動きを捉えられるように学ぶことで、無理のない体の動きや力の使い方についても日常的に重力や摩擦など考えながら行動し、各分野に活かせるように学修する。

到 達 目 標

1. 人体の運動と物理法則の関係を理解し、科学的な見方を身につける
2. 臨床場面における科学的思考の基礎を身につける

事 前 学 習 ・ 事 後 学 習

事前学習：当該テーマについて自主的に調べて授業に臨む  
 事後学習：当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする

対応	○ (DP1)	(DP2)	◎ (DP3)
DP	(DP4)	(DP5)	(DP6)

回数	日程	単 元	内 容	担当教員
1	月 日	物理学基礎で学習すること 物理量とその表し方(1)	物理学とは、看護学・理学療法学・作業療法学と物理学 物理量、国際単位系（基本単位と組立単位）、ベクトル量とスカラー量	黒木昌一
2	月 日	物理量とその表し方(2)	大きい数、小さい数の表し方、指数の計算、有効数字とその計算	黒木昌一
3	月 日	物理学で使うグラフと関数(1)	数式とグラフ、三角関数	黒木昌一
4	月 日	物理学で使うグラフと関数(2)	変化率と微分、ベクトルの計算	黒木昌一
5	月 日	いろいろな運動(1)	位置と変位、速度、加速度、等速直線運動	黒木昌一
6	月 日	いろいろな運動(2)	等加速度直線運動、自由落下、鉛直投げ上げ、水平投射	黒木昌一
7	月 日	さまざまな力(1)	力とは、力の単位、重力、張力	黒木昌一
8	月 日	さまざまな力(2)	垂直抗力、摩擦力、弾性力、圧力	黒木昌一
9	月 日	力のつり合いと運動の法則(1)	力の合成と力のつり合い、慣性の法則、遠心力	黒木昌一
10	月 日	力のつり合いと運動の法則(2)	運動方程式、作用反作用の法則	黒木昌一
11	月 日	物体の重心と回転運動(1)	剛体の回転運動、力のモーメントのつり合い、重心と重心の求め方	黒木昌一
12	月 日	物体の重心と回転運動(2)	剛体の運動と剛体にはたらく力、力のモーメントと3つのでこ	黒木昌一
13	月 日	運動量、仕事とエネルギー(1)	運動量と力積、仕事と仕事率、運動エネルギー	黒木昌一
14	月 日	運動量、仕事とエネルギー(2)	位置エネルギー、エネルギー保存の法則	黒木昌一
15	月 日	波、音と光	波の特徴、縦波と横波、照度と光度	黒木昌一

評 価	レポート・授業中の小テスト 30% と期末試験（筆記試験） 70%で評価する。
教科書	特に指定しない。（プリント配布等で対応）
参考図書等	1) 廣岡秀明・崔東学・古川裕之・吉村玲子・山本洋 共著「医療系の基礎としての物理」 学術図書出版社 2) 横田俊昭著 「看護と医療技術者のためのぶつり学」 第2版 共立出版 3) 藤城敏幸/佐藤幸一著 「医療系のための物理」 第2版 東京教学社



留意事項	
オフィスアワー等	

授 業 科 目 名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担 当 教 員
英語 I (医療英語)	演習	1 単位 (30 時間)	1 年前期	Greggory John Wroblewski

授 業 概 要

ここでのポイントは臨床の様々な現場で患者との英語によるコミュニケーションを実現するための基礎となる慣用表現を修得する。実際に使えない英語は意味がないので、発音練習の中でアクセント、フレーズ、イントネーションなども知り、基本的単語と簡単な構文を駆使した会話が成立することを目指す。講義を通じて必要な単語を覚え、英文の構造の理解を学ぶことで、英語が聞き取れるようになるように学ぶ。人々とのコミュニケーションの手段として、医療の場における会話ができるように学修する。

到 達 目 標

1. 英語で症状に関する会話ができる
2. 英語で入院中の生活に関する会話ができる

事 前 学 習 ・ 事 後 学 習

事前学習：該当テーマについて自主的に調べて授業に臨む

事後学習：当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする

対応	<input checked="" type="radio"/> (DP1)	<input type="radio"/> (DP2)	<input type="radio"/> (DP3)
DP	<input type="radio"/> (DP4)	<input type="radio"/> (DP5)	<input type="radio"/> (DP6)

回数	日程	単 元	内 容	担当教員
1	月 日	身体の基本部位	授業ガイダンス 身体の基本部位の名称	Greggory John Wroblewski
2	月 日	don't worry	リーディング、リスニング演習	Greggory John Wroblewski
3	月 日	How may I help you?	リーディング、リスニング演習	Greggory John Wroblewski
4	月 日	How are you feeling?	リーディング、リスニング演習	Greggory John Wroblewski
5	月 日	Could you fill in this medical questionnaire?	リーディング、リスニング演習	Greggory John Wroblewski
6	月 日	Take the elevator please	リーディング、リスニング演習	Greggory John Wroblewski
7	月 日	What are your symptoms?	リーディング、リスニング演習	Greggory John Wroblewski
8	月 日	Where does it hurt?	リーディング、リスニング演習	Greggory John Wroblewski
9	月 日	How long have you had these symptoms?	リーディング、リスニング演習	Greggory John Wroblewski
10	月 日	How long have you had these symptoms?	リーディング、リスニング演習	Greggory John Wroblewski
11	月 日	I am going to take a blood sample	リーディング、リスニング演習	Greggory John Wroblewski
12	月 日	Your surgery will be tomorrow.	リーディング、リスニング演習	Greggory John Wroblewski
13	月 日	There are three kinds of medicine.	リーディング、リスニング演習	Greggory John Wroblewski
14	月 日	Are you worried about anything?	リーディング、リスニング演習	Greggory John Wroblewski
15	月 日	Are you worried about anything?まとめ	リーディング、リスニング演習	Greggory John Wroblewski

評 価	
教科書	ホスピタル・イングリッシュ (改訂版) (南江堂)
参考図書等	
留意事項	
オフィスアワー等	

授 業 科 目 名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担 当 教 員
英語Ⅱ (医療文献読解)	演習	1 単位 (30 時間)	1 年後期	Greggory John Wroblewski

授 業 概 要

看護学科や理学療法学科、作業療法学科に必要な英語論文や英語記事を読み解き理解することで、大学在学中および将来にわたって必要とされる英語読解能力をスキルアップできるように学ぶ。医療の分野では最新の知見に触れることを通して、日々の実践活動に活かしていくことが今後ますます必要とされる。そのためにも英文の読解は必須である。これから学び深めていく各専門分野にも英語に親しみをもち活用できるように、また4年次の卒業研究や将来にわたって最新の英文の読解ができる基礎作りを行う。

到 達 目 標

1. 各分野の記事内容や英語論文を正しく理解できる
2. 理解した内容を説明できる

事 前 学 習 ・ 事 後 学 習

事前学習：該当テーマについて自主的に調べて授業に臨む  
 事後学習：当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする

対応	◎ (DP1)	(DP2)	(DP3)
DP	(DP4)	(DP5)	○ (DP6)

回数	日程	単 元	内 容	担当教員
1	月 日	授業ガイダンス	授業ガイダンス 講師紹介 短い記事を読む	Greggory John Wroblewski
2	月 日	文献読解①	スチューデントタイムスの医療に関する記事を読む	Greggory John Wroblewski
3	月 日	文献読解①	スチューデントタイムスの医療に関する記事を読む	Greggory John Wroblewski
4	月 日	文献読解①	学生プレゼンテーション	Greggory John Wroblewski
5	月 日	文献読解②	タイムズに掲載されている医療記事を読む	Greggory John Wroblewski
6	月 日	文献読解②	タイムズに掲載されている医療記事を読む	Greggory John Wroblewski
7	月 日	文献読解②	タイムズに掲載されている医療記事を読む	Greggory John Wroblewski
8	月 日	文献読解②	学生プレゼンテーション	Greggory John Wroblewski
9	月 日	文献読解③	各学科領域の研究論文を読む	Greggory John Wroblewski
10	月 日	文献読解③	各学科領域の研究論文を読む	Greggory John Wroblewski
11	月 日	文献読解③	各学科領域の研究論文を読む	Greggory John Wroblewski
12	月 日	文献読解③	各学科領域の研究論文を読む	Greggory John Wroblewski
13	月 日	文献読解③	各学科領域の研究論文を読む	Greggory John Wroblewski
14	月 日	文献読解③	各学科領域の研究論文を読む	Greggory John Wroblewski
15	月 日	授業まとめ	学生プレゼンテーション	Greggory John Wroblewski

評 価	
教科書	ホスピタル・イングリッシュ (改訂版) (南江堂)
参考図書等	
留意事項	
オフィスアワー等	

授 業 科 目 名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担 当 教 員
スポーツ理論	講義	1 単位 (15 時間)	1 年前期	小西裕之

授 業 概 要

学生の健康管理の一環ともなるようスポーツについて学修する。人間にとって体を動かすことがどのような意義があるのか、スポーツがもたらす心や体への影響を考え、体力づくりや健康づくりや、スポーツ理論について学ぶ。さらに障害者のスポーツについても学修する。障害には身体障害、知的障害、精神障害、発達障害などがある。初めてスポーツに参加する障害者に対し、スポーツの喜びや楽しさを重視したスポーツ活動の導入を支援できるように学修する。

到 達 目 標

1. スポーツが身体・精神に及ぼす影響について説明できる
2. 健康と体力づくりの関係について説明できる
3. スポーツに取り組む際の安全への配慮について説明できる
4. 障がい者スポーツの概要を説明できる

事 前 学 習 ・ 事 後 学 習

事前学習：該当テーマについて自主的に調べて授業に臨む  
 事後学習：当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする

対応	◎ (DP1)	(DP2)	○ (DP3)
DP	(DP4)	(DP5)	(DP6)

回数	日程	単 元	内 容	担当教員
1		スポーツの意義と役割	授業ガイダンス 健康の概念 運動・スポーツが健康に及ぼす影響	小西裕之
2		ライフステージによる 運動・スポーツ	ライフステージ別にみた運動・スポーツ及びそれらの健康に及ぼす影響	小西裕之
3		スポーツと メンタルヘルス	運動・スポーツがメンタルヘルスに及ぼす影響	小西裕之
4		安全管理	安全管理の考え方、安全上の約束と指導、レクリエーションの工夫	小西裕之
5		運動処方	運動処方の原則、運動処方についての留意点	小西裕之
6		障害別指導の特徴	身体別障害、知的障害、精神障害、発達障害	小西裕之
7		障がい者スポーツ	障がい者スポーツ振興の経過	小西裕之
8		まとめ	ノーマライゼーションの考え方、授業の振り返り	小西裕之

評 価	学内規定に準ずる
教科書	なし
参考図書等	適宜配布する。
留意事項	携帯電話等モバイル機器の無断使用を禁止する
オフィスアワー等	授業終了後、もしくはメールにて問い合わせること

授業科目名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員
スポーツ実践	演習	1単位 (30時間)	1年後期	小西裕之

授 業 概 要

学生の健康管理の一環ともなるよう、様々なスポーツを経験することで体を動かし健康づくりについて考えるとともに、お互いに協力してコミュニケーション力を向上させ、生涯スポーツに取り組めるように学ぶ。スポーツ実践の際はその競技のルールに従うことや、チームで行う場合は協力し、ともに仲間の力を信じてお互いの能力を最大限に発揮できるように臨むことが必要となる。各スポーツの実践を通して協調性や、目標を共有し協力しあう楽しさも学修する。

到 達 目 標

1. スポーツの健康に対する意義について説明できる
2. 運動を通してチームと協力して目的を達成できる

事 前 学 習 ・ 事 後 学 習

事前学習：該当テーマについてゲームのルール等調べて授業に臨む  
 事後学習：当日の該当テーマについて振り返りや自主的に練習する

対応	◎ (DP1)	(DP2)	(DP3)
DP	(DP4)	○ (DP5)	(DP6)

回数	日程	単 元	内 容	担当教員
1		レクリエーション運動の歴史	授業ガイダンス レクリエーション (自己紹介を兼ねる)	小西裕之
2		スポーツ実技 1	バドミントン①	小西裕之
3		スポーツ実技 2	バドミントン②	小西裕之
4		スポーツ実技 3	バドミントン③	小西裕之
5		スポーツ実技 4	バスケットボール①	小西裕之
6		スポーツ実技 5	バスケットボール②	小西裕之
7		スポーツ実技 6	バスケットボール③	小西裕之
8		スポーツ実技 7	卓球①	小西裕之
9		スポーツ実技 8	卓球②	小西裕之
10		スポーツ実技 9	卓球③	小西裕之
11		スポーツ実技 10	バレーボール①	小西裕之
12		スポーツ実技 11	バレーボール②	小西裕之
13		スポーツ実技 12	フットサル①	小西裕之
14		スポーツ実技 13	フットサル②	小西裕之
15		スポーツと健康 まとめ	スポーツの健康に対する意義、まとめ	小西裕之

評 価	出席 2/3 以上が基本
教科書	
参考図書等	
留意事項	
オフィスアワー等	

授 業 科 目 名	授 業 形 態	単 位 数 (時 間 数)	配 当 年 次	担 当 教 員
解剖学 I	講義	1 単位 (30 時間)	1 年前期	東 華 岳

授 業 概 要
<p>人体を構成する器官・系統のうち、動物性機能に関係の深い筋骨格系（骨・関節・筋）と神経系（脳・脊髄・感覚）の基本的な構造について学ぶ。また、理学療法と関わりの深い筋骨格系および神経系の代表的な障害（疾患）の概要を学び、解剖学とリハビリテーションの関連について理解する。</p>

到 達 目 標
<p>1. 人体の骨と筋について、名称、起始、停止、支配神経、作用を述べることができる</p> <p>2. 神経系に属する各器官の名称や解剖学的区分、特徴等を説明することができる</p> <p>3. 理学療法を行うにあたり解剖学を学ぶ意義について理解する</p>

事 前 学 習 ・ 事 後 学 習
<p>事前学習：該当箇所を読んでおく</p> <p>事後学習：授業内容を復習し、整理する</p>

対応	(DP1)	(DP2)	(DP3)
DP	(DP4)	(DP5)	(DP6)

回数	日程	単 元	内 容	担当教員
1		総論	人体の基準面と方向、人体の構成（細胞・組織・器管・器官系）、人体の発生	東 華 岳
2		骨格	頭蓋・脊柱・胸郭・上下肢の構造、骨の血管と神経、骨の発生とリモデリング	東 華 岳
3		関節と靭帯	関節の分類、関節の構造、頭蓋・脊柱・胸郭・上肢・下肢の関節と靭帯	東 華 岳
4		筋	筋組織の種類と特徴、骨格筋の構造と作用、筋の生理、骨格筋の神経支配	東 華 岳
5		筋	上肢の筋の構造・作用・神経支配①	東 華 岳
6		筋	上肢の筋の構造・作用・神経支配②	東 華 岳
7		筋	下肢の筋の構造・作用・神経支配①	東 華 岳
8		筋	下肢の筋の構造・作用・神経支配②	東 華 岳
9		筋	体幹の筋の構造・作用・神経支配	東 華 岳
10		神経系	神経系の構成、髄膜と脳室系、神経系の発生	東 華 岳
11		神経系	中枢神経系の構造（脊髄・脳幹・小脳・大脳・神経路）①	東 華 岳
12		神経系	中枢神経系の構造（脊髄・脳幹・小脳・大脳・神経路）②	東 華 岳
13		神経系	末梢神経系の構造（脊髄神経・脳神経）	東 華 岳
14		感覚器系	外皮・視覚器の構造と機能	東 華 岳
15		感覚器系	平衡聴覚器・嗅覚器・味覚器の構造と機能	東 華 岳

評 価	定期試験（100%）
教科書	1. 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第5版（野村 嶺 編 医学書院） 2. 配布資料
参考図書等	
留意事項	
オフィスアワー等	

授業科目名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員
解剖学Ⅱ	講義	1単位 (30時間)	1年後期	東華岳

授 業 概 要

人体を構成する器官・系統のうち、植物性機能に関係の深い循環器系・呼吸器系・消化器系・泌尿生殖器・内分泌系の基本的な構造について学ぶ。また、理学療法と関わりの深い各系の代表的な障害（疾患）の概要を学び、解剖学とリハビリテーションの関連について理解する。

到 達 目 標

1. 循環器系・呼吸器系・消化器系・泌尿生殖器・内分泌系に属する各器管の名称や解剖学的区分、特徴を説明することができる
2. 理学療法を行うにあたり解剖学を学ぶ意義について理解する

事 前 学 習 ・ 事 後 学 習

事前学習：該当箇所を読んでおく

事後学習：授業内容を復習し、整理する

対応	(DP1)	(DP2)	(DP3)
DP	(DP4)	(DP5)	(DP6)

回数	日程	単 元	内 容	担当教員
1	月 日	総論	内臓器官の基本構造	東華岳
2	月 日	循環器系	心臓の構造、循環系の分類、動脈系と静脈系、胎生期の循環系①	東華岳
3	月 日	循環器系	心臓の構造、循環系の分類、動脈系と静脈系、胎生期の循環系②	東華岳
4	月 日	循環器系	リンパ系の構造（毛細リンパ管、リンパ管、リンパ節、リンパ本幹、リンパ性器管）	東華岳
5	月 日	呼吸器系	外鼻・鼻腔・副鼻腔の構造、咽頭と喉頭の構造	東華岳
6	月 日	呼吸器系	気管と気管枝の構造、肺の構造、胸膜と縦隔の構造①	東華岳
7	月 日	呼吸器系	気管と気管枝の構造、肺の構造、胸膜と縦隔の構造②	東華岳
8	月 日	消化器系	口腔・咽頭・食道の構造	東華岳
9	月 日	消化器系	胃・小腸・大腸の構造	東華岳
10	月 日	消化器系	肝臓・胆嚢・膵臓・腹膜の構造	東華岳
11	月 日	泌尿生殖器	泌尿器系（腎臓・尿管・膀胱・尿道）の構造	東華岳
12	月 日	泌尿生殖器	生殖器（男性生殖器・女性生殖器）の構造	東華岳
13	月 日	内分泌系	ホルモン、下垂体・松果体・甲状腺・上皮小体の構造	東華岳
14	月 日	内分泌系	副腎・膵島・視床下部の構造	東華岳
15	月 日	内分泌系	心臓・胸腺の構造	東華岳

評 価	定期試験（100%）
教科書	1. 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第5版（野村 巖 編 医学書院） 2. 配布資料
参考図書等	
留意事項	
オフィスアワー等	

授業科目名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員
解剖学実習	実習	1単位 (45時間)	1年前期	東華岳 田中真一 古後晴基 坪内優太

授業概要			
人体模型や3D教材を用いた実習および献体解剖の見学を通して、人体（運動器系・神経系）の構造を立体的に理解する。			
到達目標			
1. 上肢・下肢・頭蓋・体幹を構成する骨と筋の基本的形態について説明することができる			
2. 消化器系、循環器系、呼吸器系、神経系の基本的な構造について説明することができる			
事前学修・事後学修			
事前学修：事前に示された課題について個人学修しておくこと			
事後学修：実習およびグループ学修で学んだことをまとめ、記録する			
対応	(DP1)	○ (DP2)	◎ (DP3)
DP	(DP4)	(DP5)	(DP6)

回数	日程	単元	内容	担当教員
1	月 日	オリエンテーション	模型・3D教材を用いた実習の目的と方法	東華岳 田中真一 古後晴基 坪内優太
2	月 日	骨と筋の構造と機能	上肢の骨と筋の構造と機能（模型・3D教材を用いた実習①）	東華岳 田中真一 古後晴基 坪内優太
3	月 日	骨と筋の構造と機能	上肢の骨と筋の構造と機能（模型・3D教材を用いた実習②）	東華岳 田中真一 古後晴基 坪内優太
4	月 日	骨と筋の構造と機能	上肢の骨と筋の構造と機能（模型・3D教材を用いた実習③）	東華岳 田中真一 古後晴基 坪内優太
5	月 日	骨と筋の構造と機能	上肢の骨と筋の構造と機能（模型・3D教材を用いた実習④）	東華岳 田中真一 古後晴基 坪内優太
6	月 日	骨と筋の構造と機能	上肢の骨と筋の構造と機能（模型・3D教材を用いた実習⑤）	東華岳 田中真一 古後晴基 坪内優太
7	月 日	骨と筋の構造と機能	下肢の骨と筋の構造と機能（模型・3D教材を用いた実習①）	東華岳 田中真一 古後晴基 坪内優太
8	月 日	骨と筋の構造と機能	下肢の骨と筋の構造と機能（模型・3D教材を用いた実習②）	東華岳 田中真一 古後晴基 坪内優太
9	月 日	骨と筋の構造と機能	下肢の骨と筋の構造と機能（模型・3D教材を用いた実習③）	東華岳 田中真一 古後晴基 坪内優太



回数	日程	単元	内 容	担当教員
10	月 日	骨と筋の構造と機能	下肢の骨と筋の構造と機能（模型・3D教材を用いた実習④）	東華岳 田中真一 古後晴基 坪内優太
11	月 日	骨と筋の構造と機能	下肢の骨と筋の構造と機能（模型・3D教材を用いた実習⑤）	東華岳 田中真一 古後晴基 坪内優太
12	月 日	骨と筋の構造と機能	頭蓋・体幹の骨と筋の構造と機能（模型・3D教材を用いた実習①）	東華岳 田中真一 古後晴基 坪内優太
13	月 日	骨と筋の構造と機能	頭蓋・体幹の骨と筋の構造と機能（模型・3D教材を用いた実習②）	東華岳 田中真一 古後晴基 坪内優太
14	月 日	骨と筋の構造と機能	頭蓋・体幹の骨と筋の構造と機能③（模型・3D教材を用いた実習③）	東華岳 田中真一 古後晴基 坪内優太
15	月 日	骨と筋の構造と機能	頭蓋・体幹の骨と筋の構造と機能③（模型・3D教材を用いた実習④）	東華岳 田中真一 古後晴基 坪内優太
16	月 日	解剖見学	献体の解剖見学①（上肢の筋骨格と神経）	東華岳
17	月 日	解剖見学	献体の解剖見学②（上肢の筋骨格と神経）	東華岳
18	月 日	解剖見学	献体の解剖見学③（上肢の筋骨格と神経）	東華岳
19	月 日	解剖見学	献体の解剖見学④（下肢の筋骨格と神経）	東華岳
20	月 日	解剖見学	献体の解剖見学⑤（下肢の筋骨格と神経）	東華岳
21	月 日	解剖見学	献体の解剖見学⑥（下肢の筋骨格と神経）	東華岳
22	月 日	解剖見学	献体の解剖見学⑦（頭蓋・体幹の筋骨格と神経）	東華岳
23	月 日	解剖見学	献体の解剖見学⑧（頭蓋・体幹の筋骨格と神経）	東華岳

評 価	筆記試験（50%）、課題レポート（50%）
教科書	1. 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第5版（野村 巖 編 医学書院） 2. 配布資料
参考図書等	
留意事項	
オフィスアワー等	

授 業 科 目 名	授 業 形 態	単 位 数 (時 間 数)	配 当 年 次	担 当 教 員
生理学 I	講義	1 単位 (30 時間)	1 年前期	中川和憲

授 業 概 要

人体を構成する器官・組織のうち、動物性機能に関係が深い筋骨格系（骨・関節・筋）と神経系（脳・脊髄・末梢神経）の基本的な生理機能について学ぶ。また、理学・作業療法と関わりが深い筋骨格系および神経系の代表的な障害（疾患）の概要について学び、生理学とリハビリテーションの関連について理解する。

到 達 目 標

1. 筋骨格系と神経系に属する各器管の名称について説明することができる。
2. 筋骨格系と神経系に属する各器管の生理機能について説明することができる。
3. 感覚に関わる器官と需要のしくみについて説明することができる。
4. 理学・作業療法を行うにあたり生理学を学ぶ意義について理解する。

事 前 学 習 ・ 事 後 学 習

事前学習：各授業のテーマに該当するテキストに目を通し、理解を深めておくと同時に、難解な箇所をまとめておき講義にのぞむこと。  
事後学習：教科書と配布資料による復習を行ない、関連分野の過去問を解くなどして、自己の知識の再確認を行うこと。

対応	(DP1)	(DP2)	(DP3)
DP	(DP4)	(DP5)	(DP6)

回数	日程	単 元	内 容	担当教員
1	月 日	総論	組織・器管・器管系、ホメオスタシス	中川和憲
2	月 日	細胞の構造と機能	細胞の構造と機能、物質の移動、静止電位と活動電位	中川和憲
3	月 日	筋と骨	筋の種類と分類、骨格筋の構造と神経支配、骨格筋の収縮、筋紡錘と Golgi 器官	中川和憲
4	月 日	筋と骨	心筋の活動電位と興奮収縮連関、収縮経過と不応期、長さ－張力関係、収縮性	中川和憲
5	月 日	筋と骨	平滑筋の機能、張力の発生と収縮、骨の成長と老化	中川和憲
6	月 日	運動生理	筋力と筋持久力、筋収縮のエネルギー源	中川和憲
7	月 日	神経系	神経細胞の構造、興奮の発生と伝導、神経の種類、体性神経	中川和憲
8	月 日	神経系	自律神経、シナプスにおける興奮の伝達	中川和憲
9	月 日	神経系	中枢神経系の構成と機能、脊髄の構造と反射、脳幹の構造と機能	中川和憲
10	月 日	神経系	小脳の構造と機能、小脳への入出力、運動学習、視床および視床下部の構造と機能	中川和憲
11	月 日	神経系	大脳皮質の構造と機能、高次脳機能	中川和憲
12	月 日	神経系	大脳基底核と脳梁、大脳辺縁系、脳室と脳脊髄液、血液脳関門	中川和憲
13	月 日	感覚	体性感覚、内臓感覚	中川和憲
14	月 日	感覚	特殊感覚 1	中川和憲
15	月 日	感覚	特殊感覚 2	中川和憲

評 価	定期試験（100%） 最終試験で 60%以上の得点を単位取得の必須要件とする。 評価が「D（不可）」であった場合は、1 度に限り再試験を実施する。
教科書	1. 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第 5 版（医学書院） 2. 配布資料

参考図書等	
留意事項	学習の理解度は、次回授業にて指名して確認する場合もあるので、スライドや資料で<ポイント>とした項目、キーワードについては、自己の言葉で論述できるようまとめておくこと。
オフィスアワー等	オフィスアワー：講義日昼休み。これ以外の時間帯を希望する場合は、メールにて事前連絡の上訪ねること。 連絡先メール：配布資料に記載

授 業 科 目 名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担 当 教 員
生理学Ⅱ	講義	1 単位 (30 時間)	1 年後期	中川和憲

授 業 概 要
人体を構成する器官・組織のうち、植物性機能に関係が深い循環器系・呼吸器系・消化器系・泌尿生殖器・内分泌系の基本的な生理機能について学ぶ。また、理学療法と関わりが深い各系の代表的な障害（疾患）の概要を学び、生理学とリハビリテーションの関連について理解する。

到 達 目 標
1. 循環器系・呼吸器系・消化器系・泌尿生殖器・内分泌系に属する各器管の名称について説明することができる 2. 循環器系・呼吸器系・消化器系・泌尿生殖器・内分泌系に属する各器管の生理機能について説明することができる 3. 理学療法を行うにあたり生理学を学ぶ意義について理解し、説明することができる

事 前 学 習 ・ 事 後 学 習
事前学習：各授業のテーマに該当するテキストに目を通し、理解を深めておくと同時に、難解な箇所を明確にして講義にのぞむこと。 事後学習：教科書と配布資料による復習を行ない、関連分野の過去問を解くなどして、自己の知識の再確認を行うこと。

対応	(DP1)	(DP2)	(DP3)
DP	(DP4)	(DP5)	(DP6)

回数	日程	単 元	内 容	担当教員
1	月 日	血液	血液の組成と機能、赤血球、白血球、血小板、血漿、血液型	中川和憲
2	月 日	心臓と循環	血液の循環、心臓の興奮と刺激伝導系、心電図、血液の拍出と血圧、心周期	中川和憲
3	月 日	心臓と循環	心機能曲線、血圧の調節、微小循環と物質交換、静脈還流、臓器循環、リンパ循環	中川和憲
4	月 日	呼吸とガスの運搬	外呼吸と内呼吸、気道と肺胞、呼吸運動、呼吸気量	中川和憲
5	月 日	呼吸とガスの運搬	ガス交換とガスの運搬、呼吸の調節、病的呼吸	中川和憲
6	月 日	消化と吸収	口腔内消化、食物輸送、胃・十二指腸の機能	中川和憲
7	月 日	消化と吸収	空腸・回腸・大腸・肝臓の機能	中川和憲
8	月 日	尿の生成と排泄	腎臓の機能、尿の生成	中川和憲
9	月 日	尿の生成と排泄	クリアランス、糸球体濾過量、腎血漿流量、排尿の機能	中川和憲
10	月 日	酸塩基平衡	血漿の PH 調節、アシドーシスとアルカローシス	中川和憲
11	月 日	生殖と発生・成長と老化	男性生殖機能・女性生殖機能、受精・着床・胎児の発生①	中川和憲
12	月 日	生殖と発生・成長と老化	男性生殖機能・女性生殖機能、受精・着床・胎児の発生②	中川和憲
13	月 日	内分泌	内分泌機能とホルモン	中川和憲
14	月 日	内分泌	ホルモンの作用	中川和憲
15	月 日	代謝と体温	エネルギー代謝と体温	中川和憲

評 価	定期試験（100%） 最終試験で 60%以上の得点を単位取得の必須要件とする。 評価が「D（不可）」であった場合は、1 度に限り再試験を実施する。
教科書	1. 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第 5 版（医学書院） 2. 配布資料
参考図書等	
留意事項	学習の理解度は、次回授業にて指名して確認する場合もあるので、スライドや資料で<ポイント>とした項目、キーワード

	ドについては、自己の言葉で論述できるようまとめておくこと。
オフィスアワー等	オフィスアワー：講義日昼休み。これ以外の時間帯を希望する場合は、メールにて事前連絡の上訪ねること。 連絡先メール：配布資料に記載

授業科目名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員
生理学実習	実習	1単位 (45時間)	1年後期	田中裕二 古後晴基 阿波邦彦 北村匡大

授業概要			
生体機能とその発現メカニズムについて学ぶことを目的に、各種機器を用いた実習を行う。また、実習により得られた結果（客観的データ）を正しく記録するとともに、グループディスカッションを通して考察を深め、その内容を発表する。			
到達目標			
1. 生体に生じる現象を各種機器により定量することができる 2. 定量された結果を記録するとともに、そのメカニズムについて考察することができる			
事前学修・事後学修			
事前学修：事前に示された課題について個人学修しておくこと 事後学修：実習およびグループ学修で学んだことをまとめ、記録する			
対応	(DP1)	○ (DP2)	◎ (DP3)
DP	(DP4)	(DP5)	(DP6)

回数	日程	単元	内容	担当教員
1	月 日	オリエンテーション	各種機器を用いた実習の目的と方法	田中裕二 古後晴基 阿波邦彦 北村匡大
2	月 日	各種機器を用いた計測	1) 神経筋機能（筋電図、神経伝導速度、脳波） 2) 感覚機能（皮膚の空間閾値、手指の触覚・圧覚・痛覚の分布、深部感覚、色覚） 3) 呼吸機能（肺活量、%肺活量、1秒率、呼吸音） 4) 循環機能（心電図、脈拍、血圧）	田中裕二 古後晴基 阿波邦彦 北村匡大
3	月 日	各種機器を用いた計測	1) 神経筋機能（筋電図、神経伝導速度、脳波） 2) 感覚機能（皮膚の空間閾値、手指の触覚・圧覚・痛覚の分布、深部感覚、色覚） 3) 呼吸機能（肺活量、%肺活量、1秒率、呼吸音） 4) 循環機能（心電図、脈拍、血圧）	田中裕二 古後晴基 阿波邦彦 北村匡大
4	月 日	各種機器を用いた計測	1) 神経筋機能（筋電図、神経伝導速度、脳波） 2) 感覚機能（皮膚の空間閾値、手指の触覚・圧覚・痛覚の分布、深部感覚、色覚） 3) 呼吸機能（肺活量、%肺活量、1秒率、呼吸音） 4) 循環機能（心電図、脈拍、血圧）	田中裕二 古後晴基 阿波邦彦 北村匡大
5	月 日	各種機器を用いた計測	1) 神経筋機能（筋電図、神経伝導速度、脳波） 2) 感覚機能（皮膚の空間閾値、手指の触覚・圧覚・痛覚の分布、深部感覚、色覚） 3) 呼吸機能（肺活量、%肺活量、1秒率、呼吸音） 4) 循環機能（心電図、脈拍、血圧）	田中裕二 古後晴基 阿波邦彦 北村匡大
6	月 日	各種機器を用いた計測	1) 神経筋機能（筋電図、神経伝導速度、脳波） 2) 感覚機能（皮膚の空間閾値、手指の触覚・圧覚・痛覚の分布、深部感覚、色覚） 3) 呼吸機能（肺活量、%肺活量、1秒率、呼吸音） 4) 循環機能（心電図、脈拍、血圧）	田中裕二 古後晴基 阿波邦彦 北村匡大
7	月 日	各種機器を用いた計測	1) 神経筋機能（筋電図、神経伝導速度、脳波） 2) 感覚機能（皮膚の空間閾値、手指の触覚・圧覚・痛覚の分布、深部感覚、色覚） 3) 呼吸機能（肺活量、%肺活量、1秒率、呼吸音） 4) 循環機能（心電図、脈拍、血圧）	田中裕二 古後晴基 阿波邦彦 北村匡大
8	月 日	各種機器を用いた計測	1) 神経筋機能（筋電図、神経伝導速度、脳波） 2) 感覚機能（皮膚の空間閾値、手指の触覚・圧覚・痛覚の分布、深部感覚、色覚） 3) 呼吸機能（肺活量、%肺活量、1秒率、呼吸音） 4) 循環機能（心電図、脈拍、血圧）	田中裕二 古後晴基 阿波邦彦 北村匡大
9	月 日	各種機器を用いた計測	1) 神経筋機能（筋電図、神経伝導速度、脳波） 2) 感覚機能（皮膚の空間閾値、手指の触覚・圧覚・痛覚の分布、深部感覚、色覚） 3) 呼吸機能（肺活量、%肺活量、1秒率、呼吸音）	田中裕二 古後晴基 阿波邦彦

回数	日程	単元	内 容	担当教員
			4) 循環機能 (心電図、脈拍、血圧)	北村匡大
10	月 日	各種機器を用いた計測	1) 神経筋機能 (筋電図、神経伝導速度、脳波) 2) 感覚機能 (皮膚の空間閾値、手指の触覚・圧覚・痛覚の分布、深部感覚、色覚) 3) 呼吸機能 (肺活量、%肺活量、1秒率、呼吸音) 4) 循環機能 (心電図、脈拍、血圧)	田中裕二 古後晴基 阿波邦彦 北村匡大
11	月 日	各種機器を用いた計測	1) 神経筋機能 (筋電図、神経伝導速度、脳波) 2) 感覚機能 (皮膚の空間閾値、手指の触覚・圧覚・痛覚の分布、深部感覚、色覚) 3) 呼吸機能 (肺活量、%肺活量、1秒率、呼吸音) 4) 循環機能 (心電図、脈拍、血圧)	田中裕二 古後晴基 阿波邦彦 北村匡大
12	月 日	各種機器を用いた計測	1) 神経筋機能 (筋電図、神経伝導速度、脳波) 2) 感覚機能 (皮膚の空間閾値、手指の触覚・圧覚・痛覚の分布、深部感覚、色覚) 3) 呼吸機能 (肺活量、%肺活量、1秒率、呼吸音) 4) 循環機能 (心電図、脈拍、血圧)	田中裕二 古後晴基 阿波邦彦 北村匡大
13	月 日	各種機器を用いた計測	1) 神経筋機能 (筋電図、神経伝導速度、脳波) 2) 感覚機能 (皮膚の空間閾値、手指の触覚・圧覚・痛覚の分布、深部感覚、色覚) 3) 呼吸機能 (肺活量、%肺活量、1秒率、呼吸音) 4) 循環機能 (心電図、脈拍、血圧)	田中裕二 古後晴基 阿波邦彦 北村匡大
14	月 日	各種機器を用いた計測	1) 神経筋機能 (筋電図、神経伝導速度、脳波) 2) 感覚機能 (皮膚の空間閾値、手指の触覚・圧覚・痛覚の分布、深部感覚、色覚) 3) 呼吸機能 (肺活量、%肺活量、1秒率、呼吸音) 4) 循環機能 (心電図、脈拍、血圧)	田中裕二 古後晴基 阿波邦彦 北村匡大
15	月 日	各種機器を用いた計測	1) 神経筋機能 (筋電図、神経伝導速度、脳波) 2) 感覚機能 (皮膚の空間閾値、手指の触覚・圧覚・痛覚の分布、深部感覚、色覚) 3) 呼吸機能 (肺活量、%肺活量、1秒率、呼吸音) 4) 循環機能 (心電図、脈拍、血圧)	田中裕二 古後晴基 阿波邦彦 北村匡大
16	月 日	各種機器を用いた計測	1) 神経筋機能 (筋電図、神経伝導速度、脳波) 2) 感覚機能 (皮膚の空間閾値、手指の触覚・圧覚・痛覚の分布、深部感覚、色覚) 3) 呼吸機能 (肺活量、%肺活量、1秒率、呼吸音) 4) 循環機能 (心電図、脈拍、血圧)	田中裕二 古後晴基 阿波邦彦 北村匡大
17	月 日	各種機器を用いた計測	1) 神経筋機能 (筋電図、神経伝導速度、脳波) 2) 感覚機能 (皮膚の空間閾値、手指の触覚・圧覚・痛覚の分布、深部感覚、色覚) 3) 呼吸機能 (肺活量、%肺活量、1秒率、呼吸音) 4) 循環機能 (心電図、脈拍、血圧)	田中裕二 古後晴基 阿波邦彦 北村匡大
18	月 日	実習レポートの作成	1) ~4) の計測結果を記録としてまとめ、結果の考察 (グループディスカッション)	田中裕二 古後晴基 阿波邦彦 北村匡大
19	月 日	実習レポートの作成	1) ~4) の計測結果を記録としてまとめ、結果の考察 (グループディスカッション)	田中裕二 古後晴基 阿波邦彦 北村匡大
20	月 日	実習レポートの作成	1) ~4) の計測結果を記録としてまとめ、結果の考察 (グループディスカッション)	田中裕二 古後晴基 阿波邦彦 北村匡大
21	月 日	実習結果の発表	実習結果の発表	田中裕二 古後晴基 阿波邦彦 北村匡大
22	月 日	実習結果の発表	実習結果の発表	田中裕二 古後晴基 阿波邦彦

回数	日程	単 元	内 容	担当教員
				北村匡大
23	月 日	実習結果の発表	実習結果の発表	田中裕二 古後晴基 阿波邦彦 北村匡大

評 価	課題発表 (50%)、レポート課題 (50%)
教科書	1. 配布資料
参考図書等	1. 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第5版 (医学書院) 2. 生理学 I・II で使用した配布資料
留意事項	
オフィスアワー等	



授業科目名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員
病理学	講義	1単位 (30時間)	1年後期	中川和憲

授 業 概 要

疾病の原因や生体への影響について理解を深めるために、病因や細胞の傷害に伴う生体反応（炎症・免疫・循環障害等）の基礎を学ぶとともに、遺伝・感染・環境・栄養・腫瘍・生活習慣などに起因する生体反応について学ぶ。また、代表的な疾病の進行と病理形態学的な変化に関する知識を通して、疾病の原因とその成り立ちについて理解を深める。

到 達 目 標

1. 病因の分類と老化に伴う形態的变化について説明することができる
2. 細胞・組織の形態と機能および炎症の概要について説明することができる
3. 各臓器の代表的な疾病と、その病理形態学の概要について説明することができる

事 前 学 習 ・ 事 後 学 習

事前学習：教科書と関連する該当箇所を予習し理解を深めておくと同時に、難解な箇所を明確にして授業に臨むこと  
 事後学習：講義当日の配布資料やノートを読み返し、学びを深め関連分野の過去問を解くなどして、自己の知識の再確認に努めること

対応	(DP1)	(DP2)	(DP3)
DP	(DP4)	(DP5)	(DP6)

回数	日程	単 元	内 容	担当教員
1	月 日	総論	病気の内因と外因、生理的老化と病的老化、老化に伴う形態的变化	中川和憲
2	月 日	細胞傷害と再生	適応と傷害、変性と細胞死、酸化ストレス、生体内色素、鉄代謝と赤血球、萎縮・肥大・化性、細胞・組織の形成	中川和憲
3	月 日	炎症	炎症の概念・原因・反応、炎症の分類、炎症の形態像	中川和憲
4	月 日	免疫	免疫系の概要、アレルギー、自己免疫疾患、移植免疫、免疫不全	中川和憲
5	月 日	循環障害	浮腫、充血・うっ血、出血、血栓・血栓症、塞栓・梗塞、ショック	中川和憲
6	月 日	先天異常と遺伝性疾患	メンデルの法則、先天異常	中川和憲
7	月 日	感染症	感染症の概要、感染症の病原体・治療・予防	中川和憲
8	月 日	環境因子と栄養	化学因子・物理的因子・生物学的因子による疾病、栄養欠乏・過多による疾病	中川和憲
9	月 日	腫瘍	腫瘍の名称・形態的特徴・分類・種類、腫瘍の増殖	中川和憲
10	月 日	腫瘍	腫瘍に起因する病態、悪性度と病期、腫瘍の原因と発生メカニズム、腫瘍と臨床病理学	中川和憲
11	月 日	生活習慣病と代謝性疾患	生活習慣病の概要、代表的な生活習慣病	中川和憲
12	月 日	難病と代謝障害	代表的な難治性炎症性疾患と代謝性疾患の概要	中川和憲
13	月 日	老年症候群	認知症・脳血管性認知症・認知症を伴う神経変性疾患・二次性認知症の概要	中川和憲
14	月 日	代表的疾患の病態	代表的な臓器疾患の病態概要①	中川和憲
15	月 日	代表的疾患の病態	代表的な臓器疾患の病態概要②	中川和憲

評 価	定期試験（100%） 最終試験で60%以上の得点を単位取得の必須要件とする。 評価が「D（不可）」であった場合は、1度に限り再試験を実施する。
教科書	1. はじめの一步の病理学 第2版（羊土社） 2. 配布資料
参考図書等	医学書院 病理学 疾病のなりたちと回復の促進①

留意事項	学習の理解度は、次回授業にて指名して確認する場合もあるので、スライドや資料で<ポイント>とした項目、キーワードについては、自己の言葉で論述できるようまとめておくこと。
オフィスアワー等	オフィスアワー：講義日昼休み。これ以外の時間帯を希望する場合は、メールにて事前連絡の上訪ねること。 連絡先メール：配布資料に記載

授 業 科 目 名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担 当 教 員
運動学 I (頭頸部・上肢)	演習	1 単位 (30 時間)	1 年前期	古後晴基

授 業 概 要				
上肢・頭頸部・顔面の関節構造と関節運動学について学ぶとともに、関節運動に作用する筋の形態学的特徴（起始・停止・神経支配・作用）の知識と統合して理解する。				

到 達 目 標				
1. 関節の構造と運動方向を説明することができる				
2. 運動時の関節包内運動について説明することができる				
3. 運動に関わる筋とその作用を説明することができる				
4. 各関節に特徴的な運動学的事象について説明することができる				

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修				
事前学修：関連するテキストの該当箇所を熟読しておくこと				
事後学修：テキスト、講義資料、参考資料などを用いて、学修した内容を整理し、理解を深めること				

対応	(DP1)	○	(DP2)	◎	(DP3)
DP	(DP4)		(DP5)		(DP6)

回数	日程	単 元	内 容	担当教員
1	月 日	総論	関節の構造と分類	古後晴基
2	月 日	総論	筋の構造と機能	古後晴基
3	月 日	肩関節の構造と機能	胸鎖関節・肩鎖関節・肩甲胸郭関節・肩甲上腕関節①	古後晴基
4	月 日	肩関節の構造と機能	胸鎖関節・肩鎖関節・肩甲胸郭関節・肩甲上腕関節②	古後晴基
5	月 日	肩関節の構造と機能	胸鎖関節・肩鎖関節・肩甲胸郭関節・肩甲上腕関節③	古後晴基
6	月 日	肩関節の構造と機能	胸鎖関節・肩鎖関節・肩甲胸郭関節・肩甲上腕関節④	古後晴基
7	月 日	肘関節の構造と機能	腕尺関節・腕頭関節・橈尺関節①	古後晴基
8	月 日	肘関節の構造と機能	腕尺関節・腕頭関節・橈尺関節②	古後晴基
9	月 日	肘関節の構造と機能	腕尺関節・腕頭関節・橈尺関節③	古後晴基
10	月 日	手根の構造と機能	橈骨手根関節・手根中央関節①	古後晴基
11	月 日	手根の構造と機能	橈骨手根関節・手根中央関節②	古後晴基
12	月 日	手の構造と機能	手根中手関節・中手指節関節・指節間関節①	古後晴基
13	月 日	手の構造と機能	手根中手関節・中手指節関節・指節間関節②	古後晴基
14	月 日	顔面の構造と機能	顎関節・顔面筋	古後晴基
15	月 日	総括	上肢・頭頸部・顔面の関節運動学と理学療法の関係	古後晴基

評 価	筆記試験 (100%)
教科書	1. 筋骨格系のキネシオロジー 原著第2版 (医歯薬出版) 2. 配布資料
参考図書等	
留意事項	
オフィスアワー等	

授 業 科 目 名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担 当 教 員
運動学Ⅱ(体幹・下肢)	演習	1単位 (30時間)	1年後期	古後晴基

授 業 概 要

体幹・下肢の関節構造と関節運動学について学ぶとともに、関節運動に作用する筋の形態学的特徴（起始・停止・神経支配・作用）の知識と統合して理解する。

到 達 目 標

1. 関節の構造と運動方向を説明することができる
2. 運動時の関節包内運動について説明することができる
3. 運動に関わる筋とその作用を説明することができる
4. 各関節に特徴的な運動学的事象について説明することができる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修

事前学修：関連するテキストの該当箇所を熟読しておくこと  
 事後学修：テキスト、講義資料、参考資料などを用いて、学修した内容を整理し、理解を深めること

対応	(DP1)	○	(DP2)	◎	(DP3)
DP	(DP4)		(DP5)		(DP6)

回数	日程	単 元	内 容	担当教員
1	月 日	体幹の構造と機能	環椎後頭関節・環軸関節・椎体関節・仙腸関節①	古後晴基
2	月 日	体幹の構造と機能	環椎後頭関節・環軸関節・椎体関節・仙腸関節②	古後晴基
3	月 日	体幹の構造と機能	環椎後頭関節・環軸関節・椎体関節・仙腸関節③	古後晴基
4	月 日	体幹の構造と機能	環椎後頭関節・環軸関節・椎体関節・仙腸関節④	古後晴基
5	月 日	体幹の構造と機能	環椎後頭関節・環軸関節・椎体関節・仙腸関節⑤	古後晴基
6	月 日	股関節の構造と機能	股関節①	古後晴基
7	月 日	股関節の構造と機能	股関節②	古後晴基
8	月 日	股関節の構造と機能	股関節③	古後晴基
9	月 日	膝関節の構造と機能	脛骨大腿関節・膝蓋大腿関節①	古後晴基
10	月 日	膝関節の構造と機能	脛骨大腿関節・膝蓋大腿関節②	古後晴基
11	月 日	膝関節の構造と機能	脛骨大腿関節・膝蓋大腿関節③	古後晴基
12	月 日	足関節の構造と機能	距腿関節・距骨下関節・横足根関節・趾節間関節①	古後晴基
13	月 日	足関節の構造と機能	距腿関節・距骨下関節・横足根関節・趾節間関節②	古後晴基
14	月 日	足関節の構造と機能	距腿関節・距骨下関節・横足根関節・趾節間関節③	古後晴基
15	月 日	総括	上肢・頭頸部・顔面の関節運動学と理学療法の関係	古後晴基

評 価	筆記試験（100%）
教科書	1. 筋骨格系のキネシオロジー 原著第2版（医歯薬出版） 2. 配布資料
参考図書等	
留意事項	
オフィスアワー等	

授 業 科 目 名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担 当 教 員
人間発達学	演習	1 単位 (30 時間)	1 年前期	小西紀一

授 業 概 要
人間は生涯にわたり心身の構造、機能が変化していく。人間の各発達段階、特に乳幼児期の特徴と発達課題について知的側面（言語、認知等）、身体的側面（原始反射、姿勢反射、腹臥位・背臥位での運動等）、情緒的側面（信頼、内発的動機等）、社会的側面（遊び等）などに焦点をあてて論じる。さらにライフサイクルにおける成熟と衰退という観点を踏まえて、医療技術者としていかに人間関係を深め、援助活動に生かしていくのか学修する。

到 達 目 標
1. 知的・身体的・情緒的・社会的側面における発達について理解を深める 2. ライフサイクルにおける成熟と衰退という観点を踏まえ、援助活動にどう生かすかを学修する。 3. ヒトの発達プロセスについて、人と作業の相互関係性及び対象操作技能の観点から、理解を深める

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前学修：事前に配布資料がある場合があります。また、次の講義で行う内容を提示した場合は予習に取り組む 事後学修：レポート課題が出される場合があります。また、講義の内容を復習しておくこと

対応	(DP1)	○ (DP2)	(DP3)
DP	(DP4)	(DP5)	(DP6)

回数	日程	単 元	内 容	担当教員
1	月 日	人間発達学総論	人間発達の様々な理論について、また生涯発達について	小西紀一
2	月 日	身体・姿勢・動作の発達1	身体活動の基本となる動作の発達について	小西紀一
3	月 日	身体・姿勢・動作の発達2	姿勢や上肢機能の分離・発達について	小西紀一
4	月 日	身体・姿勢・動作の発達2	移動動作や協調動作の発達について	小西紀一
5	月 日	認知機能・言語・社会性の発達1	認知機能の発達について	小西紀一
6	月 日	認知機能・言語・社会性の発達2	言語機能の発達について	小西紀一
7	月 日	認知機能・言語・社会性の発達3	社会性の発達について	小西紀一
8	月 日	社会生活活動の発達1	日常生活における諸活動の発達	小西紀一
9	月 日	社会生活活動の発達2	遊び・仕事をする能力の発達について	小西紀一
10	月 日	発達の諸段階と発達課題 胎生期～乳児期	胎生期から乳児期の発達の諸段階と発達課題について	小西紀一
11	月 日	発達の諸段階と発達課題 幼児期～児童期	幼児期から児童期の発達の諸段階と発達課題について	小西紀一
12	月 日	発達の諸段階と発達課題 青年期～老年期	青年期～老年期の発達の諸段階と発達課題について	小西紀一
13	月 日	対象操作機能と言語発達の関係1	系統発生的視点	小西紀一
14	月 日	対象操作機能と言語発達の関係2	個体発生的視点	小西紀一
15	月 日	人間発達学 まとめ	人間発達学のまとめを行う	小西紀一

評 価	40%レポート課題、60%を筆記試験にて判定します
教科書	奈良 勲. 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 人間発達学.医学書院.
参考図書等	
留意事項	
オフィスアワー等	

授業科目名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員
公衆衛生学	演習	1単位 (30時間)	1年後期	二宮 利治

授 業 概 要

医学・医療を通して疾病予防や健康増進を図るために必要な公衆衛生学の基礎知識について学ぶとともに、代表的な保健活動（環境保健・母子保健・学校保健・産業保健・高齢者保健・精神保健・国際保健）の概要を理解し、個人または社会における保健医療福祉を多面的視点で捉える。

到 達 目 標

1. 公衆衛生の理解に必要な基礎知識について説明することができる  
2. 様々な対象の保健概要について説明することができる  
3. 保健医療制度の概要について説明することができる

事 前 学 習 ・ 事 後 学 習

事前学習：各授業のテーマに該当するテキストに目を通しておくこと  
事後学習：教科書と配布プリントによる復習を行うこと

対応	(DP1)	(DP2)	(DP3)
DP	(DP4)	(DP5)	(DP6)

回数	日程	単 元	内 容	担当教員
1	月 日	総論	公衆衛生と医療の歴史、公衆衛生活動、生命倫理と保健医療福祉の倫理	二宮 利治
2	月 日	保健統計	健康の測定と健康指標、人口統計	二宮 利治
3	月 日	疫学	疫学調査の概要、疾病の分類、疾病量の把握、疫学の方法	二宮 利治
4	月 日	成人保健	疾病リスクと予防医学、健康管理と健康増進、健康日本 21	二宮 利治
5	月 日	感染症	感染症予防	二宮 利治
6	月 日	環境保健	環境の把握と評価、物理的環境、化学的環境、生物的環境、大気汚染、水質汚濁、廃棄物、衣食住の衛生、公害	二宮 利治
7	月 日	公衆衛生活動のプロセス	地域保健活動と行政、消費者保護	二宮 利治
8	月 日	母子保健	母子保健の水準と課題、母子保健活動と行政	二宮 利治
9	月 日	学校保健	子どもの健康、学校保健の概要、学校環境管理、学校保健教育	二宮 利治
10	月 日	産業保健	労働者の健康、労働災害と事故、職業病、健康診断と健康増進、労働時間と余暇	二宮 利治
11	月 日	高齢者保健	高齢者の生活・健康・保健・医療、認知症と対策、介護保険と地域包括ケアシステム	二宮 利治
12	月 日	精神保健	精神の健康、ストレス、精神障害の現状と分類、精神保健福祉活動	二宮 利治
13	月 日	国民栄養	国民栄養の現状、食事摂取基準、国民健康・栄養調査、食生活指針・食事バランスガイド、食育、栄養障害	二宮 利治
14	月 日	現在の公衆衛生のシステムと政策	保健医療行政の概要、保健制度・医療制度・医療保障・年金・社会福祉の仕組み	二宮 利治
15	月 日	総括	まとめ	二宮 利治

評 価	定期試験 (100%)
教科書	1. シンプル衛生公衆衛生学 (南江堂) 2. 配布資料
参考図書等	
留意事項	
オフィスアワー等	

授業科目名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員
リハビリテーション医学	演習	1単位 (30時間)	1年後期	稲川 利光

授 業 概 要

リハビリテーション医学・医療は多くの診療科に関係する疾患と障害を対象とするため、近年の高齢化に伴う疾病構造の変化（複合疾患等）を理解するとともに、代表的な疾患や障害（脳血管障害・頭部外傷・運動器疾患・脊髄損傷・神経筋疾患・切断・小児疾患・循環器疾患・呼吸器疾患・腎疾患・内分泌代謝性疾患・摂食嚥下障害・がん・その他）に対するリハビリテーション医療の概要について学ぶ。

到 達 目 標

1. リハビリテーション医学・医療の意義について理解する
2. 代表的な疾患に対するリハビリテーション医療の流れについて概説することができる
3. 障害や病期（急性期・回復期・維持期）に応じたリハビリテーションの重要性について説明することができる

事 前 学 習 ・ 事 後 学 習

事前学習：各授業のテーマに該当するテキストに目を通しておくこと

事後学習：教科書と配布プリントによる復習を行うこと

対応	(DP1)	(DP2)	(DP3)
DP	(DP4)	(DP5)	(DP6)

回数	日程	単 元	内 容	担当教員
1		総論	リハビリテーション医学・医療の概念、意義、現状、歴史	稲川 利光
2		診断と治療	各種検査（エコー・心電図・病理など）と診断、リハビリテーション治療の概要	稲川 利光
3		脳血管障害・頭部外傷	脳神経系の解剖と生理、急性期・回復期・生活期、高次脳機能障害、脳腫瘍・水頭症	稲川 利光
4		運動器疾患	運動器の構造、上肢・下肢の疾患と外傷	稲川 利光
5		脊髄損傷・神経筋疾患	外傷性脊髄損傷、馬尾損傷、パーキンソン病、ALS、SCD、ギランバレー症候群・他	稲川 利光
6		切断・小児疾患	上肢切断・下肢切断、脳性麻痺・二分脊椎、発達障害	稲川 利光
7		循環器疾患	循環器の解剖と生理、心筋梗塞、心不全、下肢閉塞性動脈疾患	稲川 利光
8		呼吸器疾患	呼吸器の解剖と生理、肺炎、慢性閉塞性肺疾患、間質性肺炎	稲川 利光
9		腎疾患・内分泌代謝性疾患	腎臓の解剖と生理、腎不全、糖尿病、肥満症、メタボリックシンドローム	稲川 利光
10		摂食嚥下障害	摂食嚥下の解剖と生理、摂食嚥下障害に対するリハビリテーション診療	稲川 利光
11		がん	がんに対するリハビリテーション医療の意義と実際	稲川 利光
12		スポーツ障害・外傷	スポーツ障害・外傷に対するリハビリテーション医療の意義と実際	稲川 利光
13		骨粗鬆症・栄養・その他	骨粗鬆症に対するリハビリテーション医療の意義と実際、栄養管理、その他	稲川 利光
14		社会貢献	障害者スポーツ、大規模災害リハビリテーション支援	稲川 利光
15		リハビリテーションの展開	ロボット、再生医療、BMI、電気刺激療法、痙縮治療、ICF、障害者の自動車運転	稲川 利光

評 価	定期試験（100%）
教科書	1. リハビリテーション医学・医療コアテキスト（医学書院） 2. 配布資料
参考図書等	
留意事項	
オフィスアワー等	

授業科目名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員
医学概論	演習	1単位 (30時間)	1年前期	富永隆治 郡山一明 山田達夫

授 業 概 要

医学を「心身の病気をなおし、健康を増進させる学問」と定義し、人間と病気の歴史や健康との関係を知ることにより、医療観や倫理観、医療を担う人材の教育や診断技術、治療の進歩、今日の我が国の医療システムなどについて学ぶ。さらに、代表的な診療科の対象となる主な疾患や医師の仕事について学び、チーム医療の一翼を担い、信頼される医療専門職としての将来の自身の在り方について考える。

到 達 目 標

- 健康と病気の定義、病気と老化との違いについて説明することができる
- 病院で標榜できる診療科の対象となる代表的な疾患をあげることができる
- 医療従事者として必要な倫理観について自身の考えを述べるることができる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修

事前学修：テキスト、参考書で該当する内容を調べ、講義で理解する準備をする

事後学修：教科書と配布プリントによる復習を行うこと

対応	(DP1)	○	(DP2)	(DP3)
DP	(DP4)		(DP5)	(DP6)

回数	日程	単 元	内 容	担当教員
1	月 日	医学をどのようにとらえるか	医学とは何か（定義、医道、サイエンスとアート、医療）、人間の生命を考える（医の倫理、生命倫理）、病気と医学	富永隆治
2	月 日	医学の発達のすがた（医学史）	医学の起源、古代・中世・近代・20世紀の医学、我が国における医学の発展	富永隆治
3	月 日	健康・病気・医学の体系	健康・病気の定義と分類、急性疾患と慢性疾患、基礎医学・臨床医学・予防医学、病気と老化	富永隆治
4	月 日	病気の原因	病理学（症状・病変・分類）、病気の内因と外因、原因不明の病気	富永隆治
5	月 日	病気による身体の変化	病理学的変化（血行障害、進行性的変化、退行性的変化、炎症、腫瘍、奇形）、病気と生体反応（ホメオスタシス、ストレス学説）	富永隆治
6	月 日	病気の診断、治療とリハビリテーション、予防	診断学の歴史、病歴、診察、診断と検査、病名、各種治療法、リハビリテーション、予防医学（免疫、感染症、母子保健、労働衛生、定期健診、人間ドック、生活習慣病）	富永隆治
7	月 日	我が国の医療システム	一次・二次・三次医療、救急医療、標榜診療科、専門医、診療報酬、家庭医	富永隆治
8	月 日	内 科	内科の診療および代表的な疾患の紹介（症候、治療）	富永隆治
9	月 日	循環器科	循環器内科の診療および代表的な疾患の紹介（症候、治療）	富永隆治
10	月 日	外 科	外科の診療および代表的な疾患の紹介（症候、治療）	富永隆治
11	月 日	整形外科	整形外科の診療および代表的な疾患の紹介（症候、治療）	富永隆治
12	月 日	脳神経内科	脳神経内科の診療および代表的な疾患の紹介（症候、治療）	山田達夫
13	月 日	脳神経外科	脳神経外科の診療および代表的な疾患の紹介（症候、治療）	山田達夫
14	月 日	産科及び婦人科	産科・婦人科の診療および代表的な疾患の紹介（症候、治療）	山田達夫
15	月 日	救命救急	救命救急の診療および代表的な疾患の紹介（症候、治療）	郡山一明

評 価	筆記試験（100%）
教科書	1. 医学概論：日野原 重明 著（医学書院） 2. 配布資料
参考図書等	
留意事項	
オフィスアワー等	



授 業 科 目 名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担 当 教 員
栄養学	講義	1 単位 (15 時間)	1 年後期	岩本 昌子

授 業 概 要
栄養素の種類と化学的性質、生理的機能、消化吸収、栄養素間の代謝における相互作用、栄養素を供給する食品について学ぶことにより、健康を維持増進し、疾病を予防するために適切な栄養摂取について理解する。また、リハビリテーション医療における栄養の重要性について理解する。

到 達 目 標
1. 栄養の意義や各栄養素の働きについて概説できる
2. 健康の保持・増進、疾病の予防における栄養の役割について理解する
3. リハビリテーション医療における栄養の重要性について理解する

事 前 学 習 ・ 事 後 学 習
-------------------

事前学習：  
事後学習：

対応	(DP1)	(DP2)	(DP3)
DP	(DP4)	(DP5)	(DP6)

回数	日程	単 元	内 容	担当教員
1		総論	栄養の定義、栄養と健康・疾患、食欲と満腹感・空腹感、食事のリズムとタイミング	岩本昌子
2		消化・吸収と栄養素の体内動態	消化・吸収と栄養、消化過程、栄養素別の消化・吸収、栄養素の体内動態	岩本昌子
3		炭水化物の栄養	炭水化物の概要、糖質の分類、エネルギー源としての作用、血糖、体内代謝	岩本昌子
4		脂質の栄養	脂質の概要、脂質の臓器間輸送と体内代謝、貯蔵エネルギー作用、生理活性物質	岩本昌子
5		たんぱく質の栄養	たんぱく質の概要、たんぱく質の合成と分解、体内代謝、アミノ酸の臓器間輸送	岩本昌子
6		ビタミンの栄養	ビタミンの概要、ビタミンの栄養学的機能、ビタミンの生物学的利用度	岩本昌子
7		ミネラルの栄養	ミネラルの概要、硬組織におけるはたらき、生体機能の調節機構、酵素反応の賦活作用	岩本昌子
8		水・電解質の栄養的意義	水の出納、脱水、浮腫、電解質代謝と栄養	岩本昌子

評 価	定期試験 (100%)
教科書	1. 配布資料
参考図書等	1. 栄養科学イラストレイテッド 基礎栄養学 第4版 (羊土社)
留意事項	
オフィスアワー等	

授 業 科 目 名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担 当 教 員
薬理学	講義	1 単位 (15 時間)	1 年後期	豊平由美子

授 業 概 要

人体の構造と機能の講義と関連させながら、薬物がどのように人体に作用し吸収されるのか学ぶ。さらに具体的な個々の薬物について、その使用目的、作用、副作用、禁忌について学ぶ。

- 到 達 目 標
1. 人体(各器官)のしくみとそれに関連する薬物の種類について説明できる
  2. 薬の作用機序・薬理作用・有害作用についての知識を活用することができる
  3. リハビリテーション業務に必要な薬の作用・副作用等の知識について説明できる

事 前 学 習 ・ 事 後 学 習

事前学習：講義内容に関連する項目を予習して授業に臨む  
 事後学習：講義資料を参照して復習・まとめをする

対応	○ (DP1)	(DP2)	◎ (DP3)
DP	(DP4)	(DP5)	(DP6)

回数	日程	単 元	内 容	担当教員
1		薬理学総論 1	薬理学を学ぶにあたって、薬が作用するしくみ	豊平由美子
2		薬理学総論 2	薬の体内挙動、薬物相互作用、薬効の個人差に影響する因子、薬物使用の有益性と危険性、薬と法律	豊平由美子
3		抗感染症薬・抗がん薬	抗菌薬・抗真菌薬・抗ウイルス・抗寄生虫薬、抗がん薬各論、免疫抑制薬・免疫増強薬・予防接種薬	豊平由美子
4		抗アレルギー薬・抗炎症薬	抗ヒスタミン薬と抗アレルギー薬、抗炎症薬、関節リウマチ・痛風・抗尿酸血症治療薬	豊平由美子
5		循環器系に作用する薬物	降圧薬、利尿薬、狭心症治療薬、心不全治療薬、抗不整脈等治療薬、脂質異常症治療薬、血液凝固系・血液に作用する薬物	豊平由美子
6		中枢神経系に作用する薬物	麻酔薬、催眠薬・抗不安薬、麻薬性鎮痛薬、抗精神病薬、抗うつ薬、パーキンソン症候群治療薬・抗てんかん薬	豊平由美子
7		末梢神経系に作用する薬物	自律神経系作用薬・筋弛緩薬・局所麻酔薬、呼吸器系・消化器系・生殖器系に作用する薬	豊平由美子
8		物質代謝に作用する薬物・まとめ	糖尿病治療薬・甲状腺疾患治療薬、骨粗鬆症治療薬	豊平由美子

評 価	筆記試験、授業態度及び出席状況等により総合的に判定 100 点中 60 点以上が合格
教科書	内山靖他【編】リハベーシック薬理学・臨床薬理学 第1版 医歯薬出版 2021 講義資料を配付する
参考図書等	吉岡充弘他【著】系統看護学講座 専門基礎分野 『疾病のなりたちと回復の促進〔3〕薬理学』 第14版 医学書院 2018 宮越浩一【編】リハに役立つ治療薬の知識とリスク管理 羊土社 2019
留意事項	講義中に小テストを実施する場合があります。
オフィスアワー等	質問は随時受け付けますので、口頭、出席票への記入、メール等で質問して下さい。詳細は初回講義時に説明します。

授業科目名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員
リハビリテーション概論	演習	1単位 (30時間)	1年前期	溝田勝彦

授 業 概 要

リハビリテーションの歴史、理念、領域などの基本的事項を理解するとともに、リハビリテーションを取り巻く社会や社会保障制度について学ぶ。また、リハビリテーションに関わる各種専門職とその職務内容を理解し、関連職種が協働する専門職連携（チーム医療）の重要性について考える。

到 達 目 標

1. 障害やノーマライゼーションの概念、リハビリテーションの定義について説明できる
2. 代表的な障害分類について説明できる
3. リハビリテーションの関連職種の名称と主な職務内容について概説できる
4. 各種専門職が連携するチーム医療の重要性について自分の考えを述べる事ができる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修

事前学修：

事後学修：

対応	(DP1)	<input type="radio"/> (DP2)	(DP3)
DP	(DP4)	(DP5)	(DP6)

回数	日程	単 元	内 容	担当教員
1		総論	障害者と社会、リハビリテーションの定義と目的	溝田勝彦
2		病気と障害	病気と障害の定義とモデル、患者と障害者を取り巻く社会	溝田勝彦
3		人間の活動と発達	人間の活動および発達とリハビリテーション	溝田勝彦
4		障害と心理	障害観と国際生活機能分類、健康と心理、医学的リハビリテーションにおける心理	溝田勝彦
5		リハビリテーションの諸段階	発症から社会生活まで、リハビリテーションの諸相	溝田勝彦
6		リハビリテーションの実際	チームアプローチと専門職①	溝田勝彦
7		リハビリテーションの実際	チームアプローチと専門職②	溝田勝彦
8		リハビリテーションの実際	チームアプローチと専門職③	溝田勝彦
9		身体障害	身体障害の特徴 視覚障害、聴覚障害、平衡機能障害、音声・言語機能・咀嚼機能障害、肢体不自由、内部障害	溝田勝彦
10		精神障害	精神障害の特徴 統合失調症、躁うつ病、てんかん、アルコールおよび薬物による精神障害	溝田勝彦
11		知的障害	知的障害の特徴	溝田勝彦
12		リハビリテーションと社会保障制度	保健医療制度、社会保険制度、社会福祉と公的扶助制度、介護保険制度①	溝田勝彦
13		リハビリテーションと社会保障制度	保健医療制度、社会保険制度、社会福祉と公的扶助制度、介護保険制度②	溝田勝彦
14		課題発表	リハビリテーションと健康・社会	溝田勝彦
15		課題発表	リハビリテーションと健康・社会	溝田勝彦

評 価	筆記試験 (80%)、課題発表 (20%)
教科書	1. 入門 リハビリテーション概論 第5版 (医歯薬出版社) 2. 配布資料
参考図書等	
留意事項	
オフィスアワー等	

授 業 科 目 名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担 当 教 員
カウンセリング論	講義	1 単位 (15 時間)	1 年前期	山口 雄介

授 業 概 要
カウンセリングの基本的なテクニックについて、具体的な事例や技法を通して学ぶ。また、リハビリテーション医療におけるカウンセリングの重要性について理解する。

到 達 目 標
1. カウンセリングの意義と過程について説明することができる
2. カウンセリングに用いられる基本的なテクニックについて説明することができる
3. リハビリテーションにおけるカウンセリングの重要性について理解する

事 前 学 習 ・ 事 後 学 習
事前学習：各授業のテーマに該当する配布資料に目を通しておくこと
事後学習：授業の内容について理解できるよう、整理しておくこと

対応	(DP1)	(DP2)	(DP3)
DP	(DP4)	(DP5)	(DP6)

回数	日程	単 元	内 容	担当教員
1	月 日	総論	カウンセリングの概要	山口 雄介
2	月 日	総論	カウンセリングプロセス、カウンセリングの基本（傾聴・観察・アセスメント）	山口 雄介
3	月 日	カウンセリング・テクニク	インテークセッション・スキル、ジョイニング、パラフレーズ・リフレクト・サマライズ、リフレーミング、治療目標、危機介入①	山口 雄介
4	月 日	カウンセリング・テクニク	インテークセッション・スキル、ジョイニング、パラフレーズ・リフレクト・サマライズ、リフレーミング、治療目標、危機介入②	山口 雄介
5	月 日	カウンセリング・テクニク	非言語コミュニケーション、自己開示、間接暗示、感情アプローチ、直面化、認知再構成、解釈、エンパワーメント①	山口 雄介
6	月 日	カウンセリング・テクニク	非言語コミュニケーション、自己開示、間接暗示、感情アプローチ、直面化、認知再構成、解釈、エンパワーメント②	山口 雄介
7	月 日	カウンセリング・テクニク	変容プロセス、トラブル解決、エクスポージャー、ソーシャルスキル、行動活性化、セルフモニタリング①	山口 雄介
8	月 日	カウンセリング・テクニク	変容プロセス、トラブル解決、エクスポージャー、ソーシャルスキル、行動活性化、セルフモニタリング②	山口 雄介

評 価	定期試験（100%）
教科書	1. 配布資料
参考図書等	1. カウンセリング・テクニク入門 プロカウンセラーの技法 30（金剛出版）
留意事項	
オフィスアワー等	

授 業 科 目 名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担 当 教 員
保健医療福祉制度論	講義	2単位 (30時間)	1年前期	西 貴 倫

授 業 概 要

医療福祉分野の専門職として知っておくべき基本的な法令の概要とその役割について学ぶ。また、我が国における国民の健康維持・増進に寄与する各種法令と社会資源について学び、医療を取り巻く現状の諸問題や将来展望について理解する。

到 達 目 標

1. 医療福祉に関係する法令の名称を挙げ、その概要について説明することができる
2. 自身が目指す資格（職種）に関係する法令の名称を挙げ、その概要について説明することができる
3. 国民の健康のために各種法令が果たす役割について理解する

事 前 学 習 ・ 事 後 学 習

事前学習：教科書と関連する該当箇所を予習し授業に臨むこと  
 事後学習：テキスト、講義資料、参考資料などを用いて、学習した内容を整理し、理解を深める

対応	(DP1)	(DP2)	(DP3)
DP	(DP4)	(DP5)	(DP6)

回数	日程	単 元	内 容	担当教員
1	月 日	法の概念	法の概念、衛生法の概念・沿革・分類、厚生労働行政のしくみ	西 貴 倫
2	月 日	医療従事者資格と関連法規	目的と定義、試験、養成課程、業務、義務、罰則、他	西 貴 倫
3	月 日	医事法	医療法、医師法・歯科医師法・薬剤師法・医療関係資格法・保健衛生福祉資格法	西 貴 倫
4	月 日	医事法	医療・介護の提供体制に関する法、移植医療に関する法、人の死に関する法、緊急時の医療に関する法①	西 貴 倫
5	月 日	医事法	医療・介護の提供体制に関する法、移植医療に関する法、人の死に関する法、緊急時の医療に関する法②	西 貴 倫
6	月 日	保健衛生法	共通保健法、分野別保健法、感染症に対する法①	西 貴 倫
7	月 日	保健衛生法	共通保健法、分野別保健法、感染症に対する法②	西 貴 倫
8	月 日	薬務法	薬事一般に関する法律、人などの組織を用いた医療関連法、薬害被害者の救済、麻薬・毒物などの法	西 貴 倫
9	月 日	環境衛生法	営業、環境整備に関する法	西 貴 倫
10	月 日	社会保険法	健康保険法、国民健康保険法、高齢者の医療の確保に関する法律、介護保険法、国民年金法、厚生年金保険法	西 貴 倫
11	月 日	福祉法	社会福祉法、生活保護法、児童分野・高齢分野・障害分野の法	西 貴 倫
12	月 日	労働法と社会基盤整備	労働基準法、労働安全衛生法、労働者災害補償保険法、雇用保険法、その他①	西 貴 倫
13	月 日	労働法と社会基盤整備	労働基準法、労働安全衛生法、労働者災害補償保険法、雇用保険法、その他②	西 貴 倫
14	月 日	環境法	環境保全の基本法、公害防止の法、自然保護法	西 貴 倫
15	月 日	総括	まとめ	西 貴 倫

評 価	定期試験（100%）
教科書	1. 系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度 [4] 看護関係法令 2. 配布資料
参考図書等	
留意事項	
オフィスアワー等	

授業科目名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員
専門職連携教育 I (専門職連携の基礎)	演習	1 単位 (30 時間)	1 年後期	白石裕子 竹元仁美 池田敏子 寺岡祥子 玉利誠 阿波那彦 松本典久 中山広宣 江口喜久雄

### 授 業 概 要

保健・医療・福祉の統合が進む社会状況にあって、その場で働く職種には各々の専門的立場からサービスを提供すると同時に、各職種が連携し、利用者に総合的に支援することが求められる。全人的支援を行うには、関連職種連携が不可欠であり、その実践のためには他職種の専門性を理解すると共に、職務の関連性やチーム医療やチームケアについて学び、関連職種との協働に必要なコミュニケーション能力を身につけられるようにする。本科目では、専門職連携についての基本的な考え方を学ぶ。

### 到 達 目 標

1. チーム医療・チームケアの必要性や意義を説明できる
2. チームビルディングの理論と実際について説明できる
3. 各医療専門職の種類と機能について説明できる
4. ふれあい体験やグループワークを通してメンバーとコミュニケーションをとり自己の意見を表現できる

### 事 前 学 修 ・ 事 後 学 修

事前学修：該当テーマについて自主的に調べて授業に臨む

事後学修：当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする

対応	(DP1)	(DP2)	(DP3)
DP	○ (DP4)	◎ (DP5)	(DP6)

回数	日程	単 元	内 容	担当教員
1		オリエンテーション	・なぜ関連職種連携教育を学ばなければならないか？ ・保健・医療・福祉を支える職種の理解と職種間連携	全員
2		国際疾病分類の理念	・専門職種間連携教育 (IPE) の展開のための基礎知識 1 ・国際疾病分類 (WHO ICF) の理念	全員
3		チーム医療とチームビルディング	・チーム医療のあり方、メンバーシップとは ・チームビルディングの理論と実際	全員
4		チームビルディングの実際	チームを作り課題に取り組む (チームメンバー発表 自己紹介)	全員
5		チームで討議	課題に対する評価 (計画性 協調性 参加の状況 リーダーシップ メンバーシップ等)	全員
6		IPE の基礎	・IPE 展開のための基礎知識 ・医療と福祉の接点	全員
7		医療専門職の種類と機能①	医師、放射線技師、管理栄養師の役割・教育・機能	全員
8		医療専門職の種類と機能②	看護師、薬剤師、管理栄養師の役割・教育・機能	全員
9		医療専門職の種類と機能③	理学療法士、作業療法士、言語聴覚士等の役割・教育・機能	全員
10		医療福祉専門職間の連携	専門職連携の理論と実際	全員
11		地域で暮らす患者・家族とのふれあい体験	ふれあい体験学修 GW	全員
12		地域で暮らす患者・家族とのふれあい体験	ふれあい体験学修 GW	全員
13		ふれあい体験振り返り	体験学修を振り返り意見交換を行う 発表準備	全員
14		グループ発表	各グループ発表	全員
15		総括	自職種の機能と役割、専門職種との連携に必要なことをまとめる	全員

評 価	課題レポート(100%)
教科書	講師資料
参考図書等	
留意事項	
オフィスアワー等	

授業科目名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員
理学療法学概論	講義	1単位 (15時間)	1年前期	溝田勝彦

**授 業 概 要**

理学療法の定義や歴史、各種技術、関連法規、理学療法士が活躍するフィールドや理学療法の実践を学び、リハビリテーションに寄与する専門職としての理学療法士の位置づけを理解し、理学療法士を志すために必要な基本的態度を修得する。

- 到 達 目 標**
1. 理学療法の定義と歴史を理解する
  2. 理学療法に関連する法律を理解する
  3. 理学療法士に求められる専門性を理解する
  4. リハビリテーションにおける理学療法の位置づけを理解する

**事 前 学 修 ・ 事 後 学 修**

事前学修：各授業のテーマに該当するテキストに目を通しておくこと  
 事後学修：教科書と配布資料による復習を行うこと

対応	(DP1)	○	(DP2)	◎	(DP3)
DP	(DP4)		(DP5)		(DP6)

回数	日程	単 元	内 容	担当教員
1	月 日	理学療法とは	理学療法の定義、理学療法の各種技術、理学療法の歴史	溝田勝彦
2	月 日	理学療法士に関連する法律	国や地方自治体による法規、理学療法士及び作業療法士法	溝田勝彦
3	月 日	理学療法士の専門性①	理学療法士の使命と倫理観、理学療法の対象と領域	溝田勝彦
4	月 日	理学療法士の専門性②	理学療法士の臨床推論過程と臨床の実際	溝田勝彦
5	月 日	リハビリテーションの中の理学療法	医療施設・保健福祉施設・その他におけるリハビリテーションと理学療法	溝田勝彦
6	月 日	理学療法と障害	障害モデルと理学療法	溝田勝彦
7	月 日	理学療法士と教育・研究	我が国と世界の理学療法教育、理学療法と研究	溝田勝彦
8	月 日	総括	理学療法士としての将来	溝田勝彦

評 価	筆記試験 (100%)
教科書	1. 理学療法概論テキスト 改訂第3版 (南江堂) 2. 配布資料
参考図書等	
留意事項	
オフィスアワー等	

授業科目名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員
体表解剖学演習	演習	1単位 (30時間)	1年後期	永崎孝之 田中真一 岡真一郎

授 業 概 要

理学療法に必要な上肢・体幹・下肢の筋骨格の構造と機能に関する基礎的な知識を整理するとともに、体表から触察可能な筋骨格の触察法について演習形式で学ぶ。また、理学療法士が触察法を修得する目的や意義について理解する。

到 達 目 標

1. 上肢・体幹・下肢の骨指標の名称と位置を説明することができる
2. 上肢・下肢・体幹の筋の名称と位置を説明することができる
3. 上肢・体幹・下肢の代表的な筋を触診することができる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修

事前学修：教科書と関連する該当箇所を予習し授業に臨むこと  
 事後学修：教科書、講義資料、参考資料などを用いて、学修した内容を整理する

対応	(DP1)	○ (DP2)	◎ (DP3)
DP	(DP4)	(DP5)	(DP6)

回数	日程	単 元	内 容	担当教員
1	月 日	触察法 概論	触察のための基本的手技、骨格筋の形と位置	永崎孝之 田中真一 岡真一郎
2	月 日	上肢の骨指標の触察①	鎖骨、胸鎖関節、肩鎖関節、肩甲骨肩甲棘、肩甲骨肩峰角、肩甲骨肩峰、肩甲骨下角、肩甲骨内側縁、肩甲骨上角、肩甲骨外側縁、肩甲骨烏口突起、上腕骨大結節、上腕骨小結節	永崎孝之 田中真一 岡真一郎
3	月 日	上肢の骨指標の触察②	上腕骨内側上顆、上腕骨外側上顆、尺骨肘頭、尺骨後縁、橈骨背側結節、橈側結節、掌側結節、尺骨尺骨頭、尺骨茎状突起、豆状骨、第1中手骨種子骨、第2中手骨底、第3中手骨底、第5中手骨底	永崎孝之 田中真一 岡真一郎
4	月 日	上肢筋の触察①	三角筋、棘上筋、棘下筋、小円筋、大円筋、肩甲下筋	永崎孝之 田中真一 岡真一郎
5	月 日	上肢筋の触察②	上腕二頭筋、烏口腕筋、上腕筋、上腕三頭筋、円回内筋、橈側手根屈筋、長掌筋、尺側手根屈筋	永崎孝之 田中真一 岡真一郎
6	月 日	上肢筋の触察③	浅指屈筋、深指屈筋、長母指屈筋、方形回内筋、腕橈骨筋、長橈側手根伸筋、短橈側手根伸筋、尺側手根伸筋、小指伸筋、総指伸筋、回外筋	永崎孝之 田中真一 岡真一郎
7	月 日	上肢筋の触察④	長母指外転筋、短母指伸筋、長母指伸筋、示指伸筋 短母指外転筋、短母指屈筋、母指対立筋、母指内転筋 短掌筋、小指外転筋、短小指屈筋、小指対立筋 手の虫様筋、掌側骨間筋、手の背側骨間筋	永崎孝之 田中真一 岡真一郎
8	月 日	体幹筋の触察①	僧帽筋、肩甲挙筋、小菱形筋、大菱形筋、広背筋、上後鋸筋、下後鋸筋、頭板状筋、頸板状筋、腸肋筋、最長筋、棘筋、半棘筋、多裂筋、回旋筋、肋骨挙筋	永崎孝之 田中真一 岡真一郎
9	月 日	体幹筋の触察②	腰方形筋、大後頭直筋、小後頭直筋、上頭斜筋、下頭斜筋、広頸筋、胸鎖乳突筋、前斜角筋、中斜角筋、後斜角筋	永崎孝之 田中真一 岡真一郎
10	月 日	体幹筋の触察③	頭長筋、頸長筋、大胸筋、小胸筋、鎖骨下筋、前鋸筋、外肋間筋、内肋間筋、腹直筋、外腹斜筋、内腹斜筋、腹横筋	永崎孝之 田中真一 岡真一郎
11	月 日	骨盤・下肢の骨指標の触察①	上前腸骨棘、下前腸骨棘、上後腸骨棘、下後腸骨棘、腸骨稜、坐骨結節、尾骨、大腿骨大転子、大腿骨転子間稜、大腿骨内側上顆、大腿骨外側上顆	永崎孝之 田中真一 岡真一郎



回数	日程	単元	内 容	担当教員
12	月 日	骨盤・下肢の骨指標の触 察②	膝蓋骨、脛骨粗面、脛骨後内側縁、脛骨内側顆後遠位縁、脛骨前縁中央 1/3 領域、 脛骨脛骨粗面外側縁、脛骨外側顆遠位縁、腓骨腓骨頭、脛骨内果、腓骨外果、 腓骨前縁遠位 1/3 領域、第 5 中足骨底、第 1 中足骨種子骨	永崎孝之 田中真一 岡真一郎
13	月 日	下肢筋の触察①	腸骨筋、大腰筋、小腰筋、大殿筋、中殿筋、小殿筋、梨状筋、内閉鎖筋、上双子筋、 下双子筋、大腿方形筋、外閉鎖筋、大腿筋膜張筋、縫工筋	永崎孝之 田中真一 岡真一郎
14	月 日	下肢筋の触察②	大腿四頭筋、膝関節筋、大腿二頭筋、半腱様筋、半膜様筋、恥骨筋、薄筋、長内転 筋、短内転筋、大内転筋、小内転筋、前脛骨筋、長趾伸筋、第三腓骨筋、長母趾伸 筋、長腓骨筋、短腓骨筋、下腿三頭筋、足底筋、膝窩筋	永崎孝之 田中真一 岡真一郎
15	月 日	下肢筋の触察③	長趾屈筋、長母趾屈筋、後脛骨筋、短母趾伸筋、短趾伸筋、背側骨間筋、母趾外転 筋、短母趾屈筋、小趾外転筋、短小趾屈筋、小趾対立筋、短趾屈筋、虫様筋、足底 方形筋、底側骨間筋	永崎孝之 田中真一 岡真一郎

評 価	筆記試験 (70%)、実技試験 (30%)
教科書	1. 骨格筋の形と触察法 改訂第 2 版 (大峰閣) 2. 配布資料
参考図書等	
留意事項	
オフィスアワー等	

授 業 科 目 名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担 当 教 員
バイオメカニクス	講義	1 単位 (15 時間)	1 年後期	永崎孝之 田中真一 岡本伸弘

授 業 概 要

身体運動を理解するために必要なバイオメカニクスの基礎について学ぶとともに、基本動作（起居動作・立ち上がり動作・移乗動作・入浴動作・歩行・車椅子操作）の介助法を学ぶ。また、介助者と被介助者の立場から介助を体験することにより、介助機器を適切に設定する意義について理解する。

到 達 目 標

1. 身体運動の基礎（運動面、体位と構え、重心と支持基底面）について説明することができる
2. 起居動作・立ち上がり動作・移乗動作・歩行のバイオメカニクスと適切な介助方法について説明することができる
3. 杖や歩行器、車椅子の特性を理解し、対象者に適切な高さや角度に調整することができる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修

事前学修：事前に示された課題について資料を作成する  
 事後学修：テキストや講義資料などを用いて、学修した内容について理解を深める

対応	(DP1)	○ (DP2)	◎ (DP3)
DP	(DP4)	(DP5)	(DP6)

回数	日程	単 元	内 容	担当教員
1	月 日	バイオメカニクスと移動 介助の基礎知識	身体運動の基礎知識とバイオメカニクス、介助の対象者の特性と留意点、安全な介助法	永崎孝之 田中真一 岡本伸弘
2	月 日	起居動作のバイオメカニクスと介助法	臥位の移動・起き上がり動作の介助演習	永崎孝之 田中真一 岡本伸弘
3	月 日	起居動作と立ち上がり動作のバイオメカニクスと介助法	長座位の移動・立ち上がり動作の介助演習	永崎孝之 田中真一 岡本伸弘
4	月 日	移乗動作のバイオメカニクスと介助法	車椅子とベッド・車椅子と便座間の移乗動作の介助演習	永崎孝之 田中真一 岡本伸弘
5	月 日	入浴動作と松葉杖歩行のバイオメカニクスと介助法	浴槽からの出入り動作・松葉杖歩行の介助演習	永崎孝之 田中真一 岡本伸弘
6	月 日	歩行器歩行と杖歩行のバイオメカニクスと介助法	固定型歩行器・段差昇降・杖歩行の介助演習	永崎孝之 田中真一 岡本伸弘
7	月 日	車椅子のバイオメカニクスと介助法	車椅子操作・回転・段差昇降の介助演習	永崎孝之 田中真一 岡本伸弘
8	月 日	総括	各種介助スキルの確認	永崎孝之 田中真一 岡本伸弘

評 価	筆記試験（50%）、実技試験（20%）、課題レポート（30%）
教科書	1. 新イラストによる安全な動作介助のてびき 第3版（医歯薬出版） 2. 配布資料
参考図書等	
留意事項	
オフィスアワー等	

授業科目名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員
基礎理学療法演習 I (キャリアデザイン)	演習	1 単位 (30 時間)	1 年後期	田中真一 北村匡大 松本典久

授 業 概 要

理学療法士が関わる代表的疾患の理学療法について情報収集し、カリキュラムとの関連を含めてプレゼンテーションを行う。また、自身の将来のキャリアについて考えるとともに、理学療法を通して人々の健康や地域社会に貢献する意義について考える。

到 達 目 標

1. 理学療法士が対象とする代表的な疾患について情報収集することができる
2. 自身の将来のキャリアと生き方について考えるとともに、カリキュラムとの関係を理解する
3. 情報を収集し、得られた情報を他者に分かりやすくまとめ、プレゼンテーションする能力を身につける
4. 他者との協同作業を通してコミュニケーション能力を高めるとともに、協同の意義や効果について理解を深める

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修

事前学修：提示した事前課題をまとめ、概要を整理しておく  
事後学修：課題レポートをまとめる

対応	(DP1)	○	(DP2)	◎	(DP3)
DP	(DP4)		(DP5)		(DP6)

回数	日程	単 元	内 容	担当教員
1	月 日	理学療法の対象領域	理学療法の対象領域を知る①	田中真一 北村匡大 松本典久
2	月 日	理学療法の対象領域	理学療法の対象領域を知る②	田中真一 北村匡大 松本典久
3	月 日	理学療法の対象領域	理学療法の対象領域を知る③	田中真一 北村匡大 松本典久
4	月 日	理学療法の対象領域	理学療法の対象領域を知る④	田中真一 北村匡大 松本典久
5	月 日	代表的疾患に対する理学療法	代表的疾患の理学療法（情報収集）①	田中真一 北村匡大 松本典久
6	月 日	代表的疾患に対する理学療法	代表的疾患の理学療法（情報収集）②	田中真一 北村匡大 松本典久
7	月 日	代表的疾患に対する理学療法	代表的疾患の理学療法（情報収集）③	田中真一 北村匡大 松本典久
8	月 日	代表的疾患に対する理学療法	代表的疾患の理学療法（情報収集）④	田中真一 北村匡大 松本典久
9	月 日	代表的疾患に対する理学療法	発表会①	田中真一 北村匡大 松本典久
10	月 日	代表的疾患に対する理学療法	発表会②	田中真一 北村匡大 松本典久
11	月 日	代表的疾患に対する理学療法	発表会③	田中真一 北村匡大 松本典久

回数	日程	単 元	内 容	担当教員
12	月 日	代表的疾患に対する理学療法	発表会④	田中真一 北村匡大 松本典久
13	月 日	キャリアデザイン	キャリアデザインとカリキュラムツリーの作成①	田中真一 北村匡大 松本典久
14	月 日	キャリアデザイン	キャリアデザインとカリキュラムツリーの作成②	田中真一 北村匡大 松本典久
15	月 日	キャリアデザイン	キャリアデザインとカリキュラムツリーの作成③	田中真一 北村匡大 松本典久

評 価	課題発表 (50%)、課題レポート (50%)
教科書	1. 配布資料
参考図書等	
留意事項	
オフィスアワー等	

授業科目名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員
理学療法評価法	講義 演習	1単位 (30時間)	1年後期	北村匡大 吉澤隆志

授 業 概 要

理学療法評価の目的や意義について学ぶとともに、医療面接や基本的な検査・測定の種類と方法を理解する。また、これまでに学んだ解剖学や生理学の知識を用い、疾病により生じる症候および障害とその評価方法について知識を整理することにより、症候と障害の関係についても理解を深める。

到 達 目 標

1. 理学療法における評価の意義と評価時のリスク管理の必要性について説明することができる
2. 各種検査・測定の必要性と具体的方法について説明することができる
3. 代表的な疾患や障害に適応する理学療法評価の項目を列挙することができる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修

事前学修：各授業のテーマに該当するテキストに目を通しておくこと 事後学修：講義当日の配布資料やノートを読み返し、学びを深める

対応	(DP1)	○ (DP2)	◎ (DP3)
DP	(DP4)	(DP5)	(DP6)

回数	日程	単 元	内 容	担当教員
1	月 日	理学療法評価総論	理学療法評価の目的と流れ、症候学と障害学	北村匡大 吉澤隆志
2	月 日	医療面接	医療面接の目的と収集すべき情報、観察上の注意点、医学的情報と他部門情報	北村匡大 吉澤隆志
3	月 日	意識障害とバイタルサイン	意識レベルの分類、バイタルサインの評価	北村匡大 吉澤隆志
4	月 日	形態測定	身長・体重・BMI の評価、四肢長・四肢周径の評価	北村匡大 吉澤隆志
5	月 日	日常生活活動（ADL）と生活の質（QOL）	ADL の概念と構成、IADL と APDL、ADL の評価、QOL の定義、QOL の評価	北村匡大 吉澤隆志
6	月 日	姿勢と動作の観察	定性的評価と定量的評価、姿勢および動作の観察と分析	北村匡大 吉澤隆志
7	月 日	関節可動域	関節可動域制限の原因、関節可動域の評価、制限因子の評価	北村匡大 吉澤隆志
8	月 日	筋緊張、筋力、筋持久力	筋力低下の評価、筋持久力低下の評価	北村匡大 吉澤隆志
9	月 日	運動麻痺	下行性伝導路、弛緩性麻痺と痙性麻痺、運動麻痺の評価	北村匡大 吉澤隆志
10	月 日	感覚障害	上行性伝導路、感覚の種類と感覚障害の評価	北村匡大 吉澤隆志
11	月 日	バランスと協調性	バランス能力および協調性低下の原因と評価	北村匡大 吉澤隆志
12	月 日	高次脳機能	高次脳機能障害の原因と評価	北村匡大 吉澤隆志
13	月 日	痛み	痛みの種類と伝導路、痛みの原因と評価	北村匡大 吉澤隆志
14	月 日	内部障害	内部障害の原因と評価	北村匡大 吉澤隆志
15	月 日	加齢による機能障害	加齢による機能障害の原因と評価	北村匡大 吉澤隆志

評 価	筆記試験（100%）
教科書	1. 理学療法評価学 障害別・関節別評価のポイントと実際（文光堂） 2. 配布資料
参考図書等	
留意事項	授業については講義と演習を組み合わせ効果的に実施する。



授 業 科 目 名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担 当 教 員
基礎臨床実習 I	実習	1 単位 (45 時間)	1 年前期	弓岡光徳 溝田勝彦 永崎孝之 玉利誠 田中真一 阿波邦彦 八谷瑞紀 古後晴基 岡真一郎 齊藤貴文 吉澤隆志 北村匡大 岡本伸弘 松本典久 渡邊一也 原田伸哉 坪内優太

授 業 概 要
理学療法士が行う理学療法業務の実際を見学することにより、理学療法士の役割や業務、理学療法士が使用する機器などについて、その概要を理解する。また、理学療法士が在籍する施設の特徴について学ぶとともに、理学療法士としての将来の自己像を形成する。

到 達 目 標
1. 理学療法士が在籍する施設の特徴について説明することができる 2. 実習施設における理学療法士の役割と業務について説明することができる 3. 実習施設に設置されている機器や理学療法士が使用する機器の名称や機能について説明することができる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前学修：実習施設の概要について、ホームページ等で調べておく 事後学修：実習で学んだ内容をまとめ、報告する

対応	(DP1)	◎ (DP2)	(DP3)
DP	(DP4)	○ (DP5)	(DP6)

授 業 の 進 め 方
<p>&lt;実習前&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ オリエンテーションにて実習の目的や目標について理解する</li> <li>・ 実習施設の概要（病床数、診療科、機器、その他）について、ホームページなどから調査する</li> <li>・ 実習施設で働く理学療法士の役割や業務について考える</li> </ul> <p>&lt;実習中&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 引率教員および実習指導者の指示に従い、実習施設および理学療法士の業務を見学する</li> </ul> <p>&lt;実習後&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実習で学んだ内容を整理する</li> <li>・ 実習施設の概要（病床数、診療科、機器、その他）および理学療法士の役割や業務についてまとめる</li> <li>・ 実習で学んだ内容について報告する</li> </ul>

評 価	レポート (100%)
教科書	1. 基礎臨床実習の手引き (理学療法学科)
参考図書等	
留意事項	
オフィスアワー等	

授 業 科 目 名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担 当 教 員
基礎臨床実習Ⅱ	実習	1 単位 (45 時間)	1 年後期	弓岡光徳 溝田勝彦 永崎孝之 玉利誠 田中真一 阿波邦彦 八谷瑞紀 古後晴基 岡真一郎 齊藤貴文 吉澤隆志 北村匡大 岡本伸弘 松本典久 渡邊一也 原田伸哉 坪内優太

#### 授 業 概 要

理学療法士が行う理学療法業務の実際を見学することにより、理学療法士の役割や業務、理学療法士が使用する機器などについて、その概要を理解する。また、理学療法士と他の職種との関係について学び、理学療法士としての将来の自己像を形成する。

#### 到 達 目 標

1. 理学療法士が在籍する施設の特徴について説明することができる
2. 実習施設における理学療法士と他の職種との関係や協働について説明することができる
3. 実習施設に設置されている機器や理学療法士が使用する機器の名称や機能について説明することができる

#### 事 前 学 修 ・ 事 後 学 修

事前学修：実習施設の概要について、ホームページ等で調べておく

事後学修：実習で学んだ内容をまとめる

対応	(DP1)	◎ (DP2)	(DP3)
DP	(DP4)	○ (DP5)	(DP6)

#### 授 業 の 進 め 方

##### <実習前>

- ・ オリエンテーションにて実習の目的や目標について理解する
- ・ 実習施設の概要（病床数、診療科、機器、その他）について、ホームページなどから調査する
- ・ 実習施設で働く理学療法士の役割や業務について考える
- ・ 実習施設に在籍する他の職種とその職務について調べる

##### <実習中>

- ・ 引率教員および実習指導者の指示に従い、実習施設および理学療法士の業務を見学する

##### <実習後>

- ・ 実習で学んだ内容を記録する
- ・ 実習施設の概要（病床数、診療科、機器、その他）および理学療法士の役割や業務についてまとめる
- ・ 実習施設における理学療法士と他の職種との関係についてまとめる
- ・ 実習で学んだ内容について報告する

評 価	レポート (100%)
教科書	1. 基礎臨床実習の手引き (理学療法学科)
参考図書等	
留意事項	
オフィスアワー等	